

Server Configuration Utility ユーザーズガイド

第1章 概要

第2章 動作環境

第3章 インストール

第4章 機能

第5章 注意事項

目次

表紙.....	1
目次.....	2
商標.....	4
本ソフトウェアが利用している外部ライブラリ.....	5
本書について.....	6
1. 概要.....	7
1.1 Server Configuration Utility の機能.....	7
2. 動作環境.....	8
2.1 ハードウェア.....	8
2.2 オペレーティングシステム.....	8
2.3 サーバマネージメントドライバ.....	9
3. インストール.....	10
3.1 Server Configuration Utility のインストール(Windows).....	10
3.1.1 インストールを始める前に.....	10
3.1.2 インストーラの起動.....	10
3.1.3 Server Configuration Utility のインストール.....	11
3.2 Server Configuration Utility のアンインストール(Windows).....	13
3.2.1 アンインストールを始める前に.....	13
3.2.2 Server Configuration Utility のアンインストール.....	13
3.3 Server Configuration Utility のインストール(Linux).....	14
3.3.1 インストールを始める前に.....	14
3.3.2 インストーラのコピーと展開.....	14
3.3.3 Server Configuration Utility のインストール.....	15
3.4 Server Configuration Utility のアンインストール(Linux).....	16
3.4.1 アンインストールを始める前に.....	16
3.4.2 Server Configuration Utility のアンインストール.....	16
4. 機能.....	17
4.1 起動方法.....	17
4.1.1 Windows.....	17
4.1.2 Linux.....	17
4.1.3 Off-line TOOL.....	18
4.2 EXPRESSSCOPE エンジン 3.....	19
4.2.1 ネットワーク・プロパティ.....	20
4.2.2 ネットワーク・サービス.....	23
4.2.3 ユーザアカウント.....	24
4.2.4 Active Directory・プロパティ.....	26
4.2.5 Active Directory・グループ.....	28
4.2.6 LDAP・プロパティ.....	30
4.2.7 LDAP・グループ.....	31
4.2.8 メール通報.....	33
4.2.9 メール通報テスト.....	35
4.2.10 SNMP 通報.....	36
4.2.11 SNMP 通報テスト.....	38
4.2.12 システム操作.....	39
4.2.13 制御.....	41
4.2.14 その他.....	42
4.3 System BIOS.....	44
4.4 ECO.....	46
4.4.1 ECO 情報.....	47

4.4.2 ECO 設定	48
4.5 モニタリング.....	50
4.5.1 WDT	50
4.5.2 シャットダウン.....	51
4.6 バックアップ.....	52
4.7 リストア.....	53
5. 注意事項.....	54
5.1 インストール.....	54
5.2 EXPRESSSCOPE エンジン 3 設定全般	54
5.3 HTTP、HTTPS 設定	54
5.4 リダイレクション設定.....	54
5.5 PEF 設定と SNMP 通報設定.....	54
5.6 BMC 通報	54
5.7 通報テスト.....	55
5.8 ECO 設定	55
5.9 管理用 LAN 設定.....	55
5.10 通信タイプ設定	55
5.11 デフォルト設定	55
5.12 キー入力.....	55

商標

EXPRESSBUILDER と ESMPRO、EXPRESSSCOPE は日本電気株式会社の登録商標です。Microsoft、Windows、Windows Server は米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。Linux は Linus Torvalds の米国およびその他の国における登録商標または商標です。Red Hat、Red Hat Enterprise Linux は、米国およびその他の国における Red Hat, Inc. の商標または登録商標です。Novell、Novell ロゴ、および SUSE は、米国およびその他の国における米国 Novell, Inc. の登録商標です。Oracle と Java は、Oracle Corporation 及びその子会社、関連会社の米国及びその他の国における登録商標です。その他、記載の会社名および商品名は各社の商標または登録商標です。

Windows Server 2012 R2 は、Microsoft® Windows Server® 2012 R2, Standard operating system および Microsoft® Windows Server® 2012 R2, Datacenter operating system の略称です。Windows Server 2012 は、Microsoft® Windows Server® 2012 Standard operating system および Microsoft® Windows Server® 2012 Datacenter operating system の略称です。Windows Server 2008 R2 は、Microsoft® Windows Server® 2008 R2, Standard operating system、Microsoft® Windows Server® 2008 R2, Enterprise operating system および Microsoft® Windows Server® 2008 R2, Datacenter operating system の略称です。Windows Server 2008 は、Microsoft® Windows Server® 2008 Standard operating system、Microsoft® Windows Server® 2008 Enterprise operating system、Microsoft® Windows Server® 2008 Datacenter operating system、Microsoft® Windows Server® 2008 Standard 32-Bit operating system、Microsoft® Windows Server® 2008 Enterprise 32-Bit operating system および Microsoft® Windows Server® 2008 Datacenter 32-Bit operating system の略称です。

本ソフトウェアが利用している外部ライブラリ

本製品には、第三サプライヤー(以下「サプライヤー」)から提供されるライブラリ(以下「外部ライブラリ」)が含まれています。本製品をご利用になる前に、以下に示される外部ライブラリの該当ライセンスファイル及び NOTICE ファイルをお読みになり、それらに記載された内容にご同意された場合のみ本製品をご利用ください。「外部ライブラリ」のライセンスファイル及び NOTICE ファイルは以下に格納されています。

- /sv_config/doc/

「外部ライブラリ」のライセンスにより、ソースコードの提供が必要なものについては、以下に格納されています。

- /sv_config/src/

なお、これら「外部ライブラリ」に対しては、お客様が日本電気株式会社(以下「NEC」)と締結されました条項に関わらず、以下の条件が適用されます。

- サプライヤーは「外部ライブラリ」を提供しますが、いかなる保障も提供しません。サプライヤーは、「外部ライブラリ」に関して、法律上の瑕疵担保責任を含め、第三者の権利の非侵害の保証、商品性の保証、特定目的適合性の保証、名称の保証を含むすべての明示または黙示のいかなる保証責任も負わないものとします。
- サプライヤーは、データの喪失、節約すべかりし費用および逸失利益など「外部ライブラリ」に関するいかなる直接的、間接的、特別、偶発的、懲罰的、あるいは結果的損害に対しても責任を負わないものとします。
- NEC 及びサプライヤーは、「外部ライブラリ」に起因又は「外部ライブラリ」に関するいかなる請求についても、お客様を防御することなく、お客様に対していかなる賠償責任または補償責任も負わないものとします。

以下は、本製品が利用している「外部ライブラリ」および Copyright の一覧です。

libnewt, libslang : Copyright (c) 1991 Free Software Foundation, Inc.

json-c : Copyright (c) 2004, 2005 Metaparadigm Pte. Ltd.

■ ご注意

- (1) 本書の内容の一部または全部を無断転載することは禁止されています。
- (2) 本書の内容に関しては将来予告なしに変更することがあります。
- (3) 弊社の許可なく複製・改変などを行うことはできません。
- (4) 本書は内容について万全を期して作成いたしましたが、万一ご不審な点や誤り、記載もれなどお気づきのことがありましたら、お買い求めの販売店にご連絡ください。
- (5) 運用した結果の影響については(4)項にかかわらず責任を負いかねますのでご了承ください。

本書について

本書では、「Server Configuration Utility」のインストール、設定内容について説明しています。Server Configuration Utility をご使用になる前に本書をよくお読みになり、正しくお使いになるようお願い申し上げます。

■ ご注意

本書での内容は、対象 OS の機能、操作方法、ネットワークの機能、設定方法について十分に理解されている方を対象に説明しています。対象 OS に関する操作および不明点については、各 OS のオンラインヘルプなどを参照してください。

本書では、対象サーバ全般について、汎用的に説明しています。対象サーバの製品別の注意事項や制限事項は、対象サーバに添付されているユーザーズガイドまたは「ESMPRO/ServerManager Ver.6 セットアップガイド」を参照してください。

本書に掲載されている画面イメージ上に記載されている名称は、すべて架空のものです。実在する品名、団体名、個人名とは一切関係ありません。また、画面イメージ上の設定値は例であり、IP アドレスなどの設定値についての動作保証を行うものではありません。

■ 本書中の記号について

本文中では次の3種類の記号を使用しています。それぞれの意味を示します。

- | | |
|--------------|---|
| 重要： | ソフトウェア、装置を取り扱う上で守らなければならない事柄、特に注意すべき点を示します。 |
| チェック： | ソフトウェア、装置を取り扱う上で確認しておく必要がある点を示します。 |
| ヒント： | 知っておくと役に立つ情報、便利なことなどを示します。 |

1. 概要

Server Configuration Utility は、サーバ上で動作するソフトウェアであり、対象サーバ上の BMCなどをコンフィグレーションします。

1.1 Server Configuration Utility の機能

- **EXPRESSSCOPE エンジン 3**
サーバの EXPRESSSCOPE エンジン 3(BMC)のコンフィグレーション情報を表示、設定することができます。設定の初期化、リセット、SEL(システムイベントログ)の消去も可能です。
- **System BIOS**
サーバのシステム BIOS を設定することができます。
設定した値は、装置を再起動することで有効になります。
- **ECO**
サーバの ECO 関連の情報を表示、設定することができます。設定の初期化も可能です。
- **モニタリング**
Windows の場合、サーバの WDT 監視、シャットダウン監視の情報を表示、設定することができます。
- **バックアップ**
サーバに設定されているコンフィグレーション情報を、ファイルに出力することができます。
- **リストア**
ファイルにバックアップしたコンフィグレーション情報を、サーバに適用することができます。
- **システム情報 (バージョン情報)**
BMC Firmware、Boot Firmware、センサ装置情報(SDR)、システム BIOS 等の各バージョン情報を表示します。

2. 動作環境

2.1 ハードウェア

以下の条件を満たしていることが必要です。

- **対象装置**
EXPRESSSCOPE エンジン 3 を搭載しており、本ソフトウェアが添付されている Express5800 シリーズおよび iStorage NS シリーズ
- **メモリ**
512MB 以上
- **ハードディスクドライブの空き容量**
100MB 以上

チェック：

- 本ソフトウェアのインストール対象モデルの例は、以下となります。
 - ・ Express5800/R120f-2M、R120f-2E、及びそれ以降の 2Way2U ラックサーバ
 - ・ Express5800/R120f-1M、R120f-1E、及びそれ以降の 2Way1U ラックサーバ
 - ・ Express5800/T120f、及びそれ以降の 2Way タワーサーバ
 - ・ Express5800/E120f-M、及びそれ以降の省電力サーバ
 - ・ Express5800/B120f、及びそれ以降のブレードサーバ
 - ・ Express5800/R110h-1、及びそれ以降の 1Way ラックサーバ
 - ・ Express5800/T110h、T110h-S、及びそれ以降の 1Way タワーサーバ
-

2.2 オペレーティングシステム

以下の OS が対象です。

- **Windows**
 - Microsoft Windows Server 2008 Standard/Enterprise
 - Microsoft Windows Server 2008 Standard/Enterprise/Datacenter x64 Edition
 - Microsoft Windows Server 2008 R2, Standard/Enterprise/Datacenter
 - Microsoft Windows Server 2012 Standard/Datacenter
 - Microsoft Windows Server 2012 R2, Standard/Datacenter
- **Linux**
 - Red Hat Enterprise Linux Advanced Platform 5 (x86, x64)
 - Red Hat Enterprise Linux Server 5 (x86, x64)
 - Red Hat Enterprise Linux Server 6 (x86, x64)
 - Red Hat Enterprise Linux Server 7 (x64)

重要：

- 以下の環境の場合、本ソフトウェアのインストールをサポートしていません。
 - ・ 仮想マシンのゲスト OS へのインストール
-

チェック：

- Red Hat Enterprise Linux Server 7は、Server Configuration Utility (Linux) Ver.1.03以降でのサポートとなります。
-

2.3 サーバマネージメントドライバ

OS が Linux の場合、本ソフトウェアを利用するためには、OpenIPMI ドライバが動作している必要があります。

チェック：

- OpenIPMI ドライバが、Linux 上にインストールされているかどうかは、以下のコマンドで確認できます。

```
rpm -qa | grep -i OpenIPMI
```

- OpenIPMI ドライバが停止している場合は、OpenIPMI ドライバを開始状態にする必要があります。OpenIPMI ドライバの状態は、以下のコマンドで確認できます。

```
/etc/init.d/ipmi status
```

コマンドの実行後、画面に「not loaded」と表示されている場合は、以下のコマンドで OpenIPMI ドライバを開始状態にしてください。

```
/etc/init.d/ipmi start
```

また、以下のコマンドを実行し、OS を再起動することで、OS の起動時に OpenIPMI ドライバを自動的に開始状態にすることができます。

```
chkconfig ipmi on
```

3. インストール

3.1 Server Configuration Utility のインストール(Windows)

3.1.1 インストールを始める前に

以下のことを確認してください。

- ・2章の動作環境を満たしていること。
- ・管理者(Administrator)権限で Windows にログインしていること。

3.1.2 インストーラの起動

■ EXPRESSBUILDER を使ってインストールする場合

EXPRESSBUILDER のオートランメニューを起動します。
オートランメニューの起動方法は、機種によって異なります。

- ・ EXPRESSBUILDER DVD が標準添付されていない装置：

デスクトップ上またはスタートメニューの「NEC EXPRESSBUILDER」のショートカットをクリックします。

ヒント：

- ・ EXPRESSBUILDER DVD が標準添付されていない装置では、「NEC EXPRESSBUILDER」を起動するために Starter Pack の適用が必須です。
-

- ・ EXPRESSBUILDER DVD が標準添付の装置：

以下の手順でインストールを実行してください。

- (1) EXPRESSBUILDER DVD を光学ドライブにセットします。

ヒント：

- ・ オートランメニューが起動しないときは、EXPRESSBUILDER の ¥autorun¥dispatcher.exe (64ビット版：dispatcher_x64.exe) をダブルクリックして、オートランメニューを手動で起動してください。
 - ・ 装置選択画面が表示された場合は、該当する装置を選択してください。
-

- (2) 以下のように選択してください。Server Configuration Utility のインストールが開始されます。
 - ・「各種アプリケーション」 - 「Server Configuration Utility」 - 「インストール」

■ ダウンロードしたモジュールを使ってインストールする場合

ダウンロードしたファイルを展開した後に、以下のファイルを実行してください。インストールが開始されます。

¥sv_config¥setup.exe

ヒント：

- ・ インストール時の注意事項については、5.1「インストール」を参照してください。
-

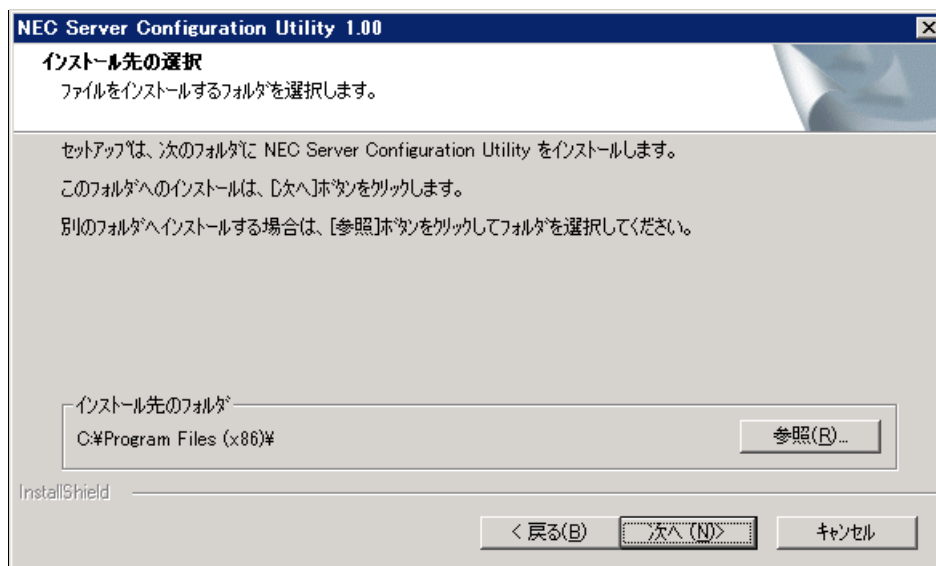
3.1.3 Server Configuration Utility のインストール

Server Configuration Utility をインストールします。

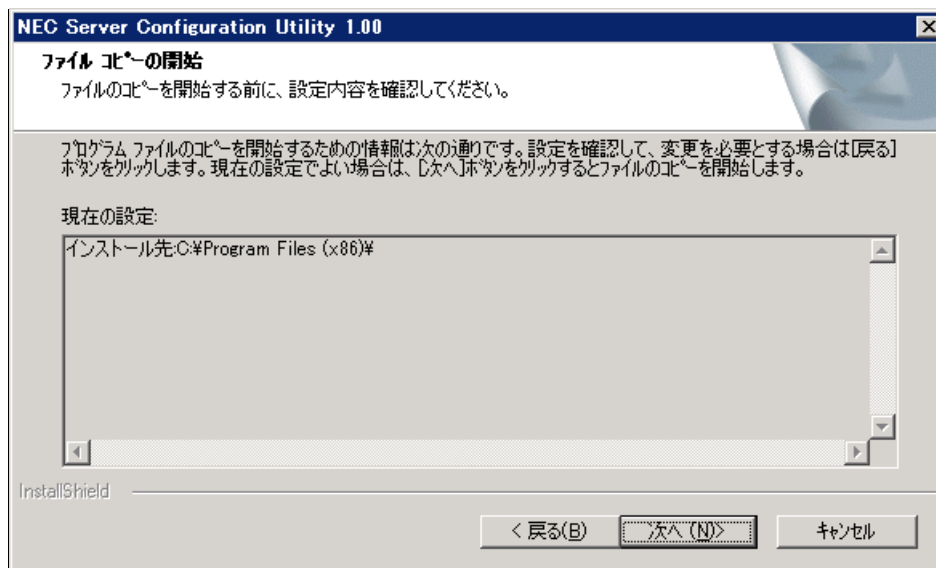
- (1) Server Configuration Utility のインストーラが起動します。「次へ」ボタンをクリックしてください。



- (2) インストール先のディレクトリ名を入力し、「次へ」ボタンをクリックしてください。



- (3) 設定した内容を確認し、「次へ」ボタンをクリックしてください。インストールが開始されます。



インストール完了後、Server Configuration Utility が実行できます。

チェック：

- インストール完了画面に「セットアップ内容はシステム再起動後に有効になります。」のメッセージが表示されている場合は、システムの再起動後、Server Configuration Utility が実行できます。
-

3.2 Server Configuration Utility のアンインストール(Windows)

3.2.1 アンインストールを始める前に

以下のことを確認してください。

- 管理者(Administrator)権限で Windows にログインしていること。

3.2.2 Server Configuration Utility のアンインストール

Windows の「コントロールパネル」の「プログラムの追加と削除」からアンインストールします。

「NEC Server Configuration Utility」を選択し、「変更と削除」ボタンをクリックしてください。表示される指示に従ってアンインストールしてください。

チェック：

- Server Configuration Utility が起動していないことを確認後、アンインストールしてください。
-

3.3 Server Configuration Utility のインストール(Linux)

3.3.1 インストールを始める前に

以下のことを確認してください。

- ・ 2章の動作環境を満たしていること。
- ・ root ユーザでログインすること。

Server Configuration Utility の格納先に応じて、以下の手順にしたがいインストールします。

■ EXPRESSBUILDER を使ってインストールする場合

内蔵フラッシュメモリの EXPRESSBUILDER に格納されている Server Configuration Utility をインストールする場合、EXPRESSBUILDER コマンドラインインターフェースを使用してインストールしてください。

ヒント :

- EXPRESSBUILDER コマンドラインインターフェースを使用したインストール作業の詳細は、EXPRESSBUILDER コマンドラインインターフェースユーザーズガイドの「アプリケーションのインストール」を参照してください。
 - Server Configuration Utility に対応するターゲットは以下になります。
"/modules/sv_config"
-

EXPRESSBUILDER DVD に格納されている Server Configuration Utility をインストールする場合、「3.3.2 インストーラのコピーと展開」以降の手順を実行します。

■ ダウンロードしたモジュールを使ってインストールする場合

「3.3.2 インストーラのコピーと展開」以降の手順を実行します。

3.3.2 インストーラのコピーと展開

インストーラ(/sv_config ディレクトリに格納されているすべてのファイル及びディレクトリ)を、対象サーバの任意のディレクトリにコピーしてください。

以下は /usr/local/bin にコピーする場合の例です。

チェック :

- Server Configuration Utility インストーラの格納場所は下記の通りです。
 - ・ EXPRESSBUILDER DVD の場合 : <レビジョンフォルダ>/lnx/pp/sv_config
 - ・ ダウンロードしたモジュールを使ってインストールする場合 : /sv_config
-

- (1) インストーラのすべてのファイル及びディレクトリを/usr/local/bin にコピーしてください。以下は EXPRESSBUILDER DVD からコピーする場合の例です。(OS の種類によってマウント先が異なる場合があります。適切なマウント先を指定してください。)

```
cp -r /mnt/cdrom/001/lnx/pp/sv_config /usr/local/bin
```

- (2) インストーラをコピーしたディレクトリに移動してください。

```
cd /usr/local/bin/sv_config
```

- (3) インストーラを展開してください。

tgz 形式の場合 :

```
tar xzvf ConfigurationUtility-N.NN-x.tgz
```

ファイル名の「N.NN」で示した部分は、バージョンごとに異なります。

zip 形式の場合 :

```
unzip EXPRESSBUILDER7_XXXXXXXX_XXXXXXXXXXXXXXXXXX.zip
```

ファイル名の「XXXXX…」で示した部分は、モジュールにより異なります。

チェック :

- unzip コマンドがインストールされていない場合は、追加でインストールしてください。

ヒント :

- インストール時の注意事項については、5.1「インストール」を参照してください。

3.3.3 Server Configuration Utility のインストール

Server Configuration Utility をインストールします。

- (1) インストーラを展開したディレクトリに移動してください。

tgz 形式の場合 :

```
cd /usr/local/bin/sv_config/ConfigurationUtility-N.NN-x
```

ディレクトリ名の「N.NN」で示した部分は、バージョンごとに異なります。

zip 形式の場合 :

```
cd /usr/local/bin/sv_config
```

- (2) インストール用のシェルスクリプトファイルを実行してください。

```
sh setup_config.sh
```

- (3) インストール確認メッセージが表示されます。「yes」を入力し、Enter キーを押してください。Server Configuration Utility が、/opt/nec/ServerConfiguration 下にインストールされます。「no」を入力した場合、インストールされません。

インストールが完了すると、完了メッセージが表示されます。

インストール完了後、ServerConfiguration Utility が実行できます。

チェック :

- インストール時に使ったファイルは、アンインストール時にも使いますので、削除しないでください。

3.4 Server Configuration Utility のアンインストール(Linux)

3.4.1 アンインストールを始める前に

以下のことを確認してください。

- ・ root ユーザでログインすること。

3.4.2 Server Configuration Utility のアンインストール

- (1) インストーラを展開したディレクトリに移動します。

tgz 形式の場合 :

```
cd /usr/local/bin/sv_config/ConfigurationUtility-N.NN-x
```

ディレクトリ名の「N.NN」で示した部分は、バージョンごとに異なります。

zip 形式の場合 :

```
cd /usr/local/bin/sv_config
```

- (2) アンインストール用のシェルスクリプトファイルを実行します。

```
sh setup_config.sh
```

- (3) アンインストール確認メッセージが表示されます。「delete」を入力し、Enter キーを押してください。

アンインストールが完了すると、完了メッセージが表示されます。

4. 機能

4.1 起動方法

4.1.1 Windows

以下の方法で Server Configuration Utility を起動できます。
管理者(Administrator)権限で実行してください。

- Windows のスタートメニューから、「NEC Server Management Utility」 – 「NEC Server Configuration Utility」 – 「NEC Server Configuration Utility」をクリックする。

ヒント :

- Server Configuration Utility のヘルプは、以下から参照することができます。
 - 画面の「ヘルプ」ボタンをクリックする。
 - Windows のスタートメニューから、「NEC Server Management Utility」 – 「NEC Server Configuration Utility」 – 「NEC Server Configuration Utility Help」をクリックする。
-

4.1.2 Linux

以下の方法で Server Configuration Utility を起動できます。
root ユーザで実行してください。

日本語を表示できるターミナルの場合 (以下は文字コードが UTF-8 の場合) :

```
LANG=ja_JP.UTF-8  
/opt/nec/ServerConfiguration/svconf -ja
```

日本語を表示できないターミナルの場合 :

```
/opt/nec/ServerConfiguration/svconf
```

ヒント :

- Server Configuration Utility のヘルプは、以下から参照することができます。

Server Configuration Utility を起動後、画面下部に「[F12] ヘルプ」と表示されている画面で、「F12」キーを押す。

4.1.3 Off-line TOOL

Off-line TOOL は、以下で起動します。

- (1) POST 画面表示中に、次のようなメッセージが画面下に表示されます。

Press<F2> SETUP, <F3> Internal flash memory, <F4> ROM Utility, <F12> Network

- (2) ここで<F4>キーを押します。<F4>キーを押すと、POST 画面終了後にキーボード選択画面が表示され、キーボード選択後に Off-line TOOL メニューが表示されます。

- (3) Server Configuration Utility を選択します。

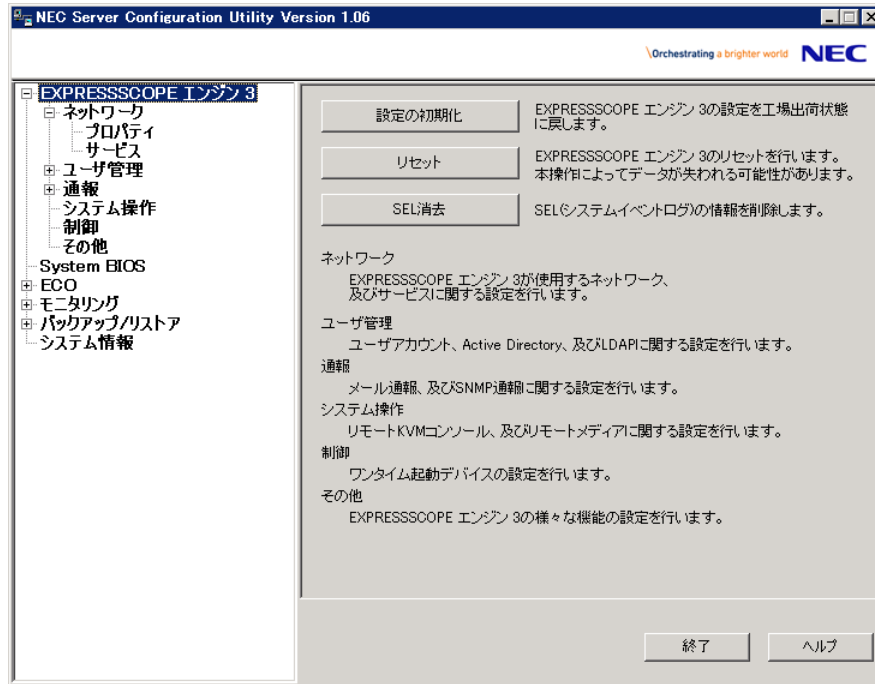
ヒント：

- Off-line TOOL は、装置に標準で搭載されています。
- 装置によっては Off-line TOOL メニューは表示されません。
- ヘルプは、以下から参照することができます。

ツールを起動後、Help メニューを選択、または、画面下部に [Help:[Home or ?]] と表示されている画面で、「Home」キー、「?」キーのどちらかを押す。

4.2 EXPRESSSCOPE エンジン 3

以下に、EXPRESSSCOPE エンジン 3 の項目を示します。
Windows 版の画面に従って説明します。



項目名	意味
設定の初期化 *1 *3	すべてのコンフィグレーションの設定を初期値に戻すことができます。初期化を実行した場合は、BMC が再起動するまで数分掛かります。
リセット *2 *3	装置を再起動せずに BMC をリセットします。リセットを実行した場合は、BMC が再起動するまで数分掛かります。
SEL 消去	SEL(システムイベントログ)のすべての記録を消去することができます。

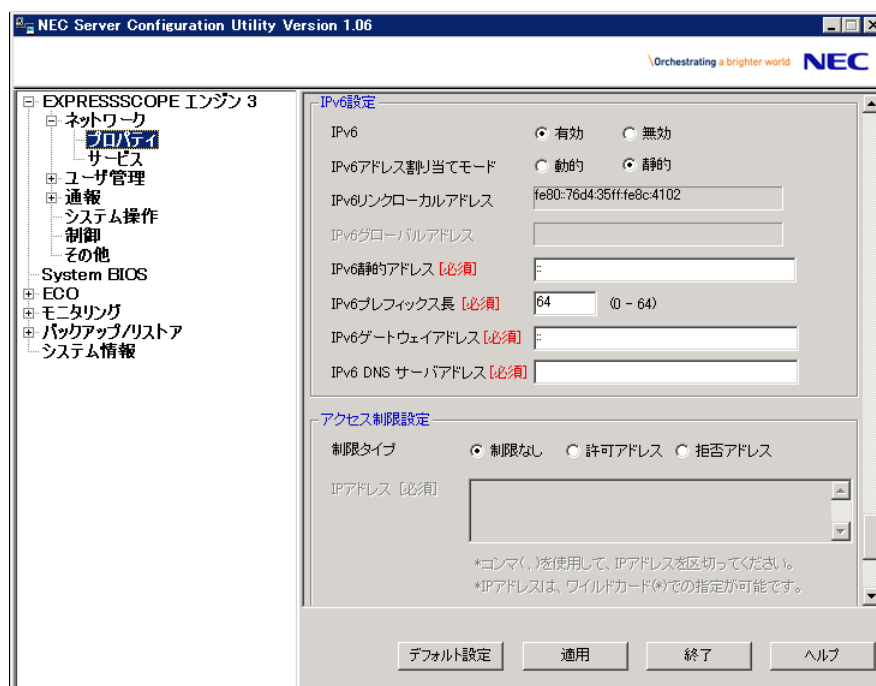
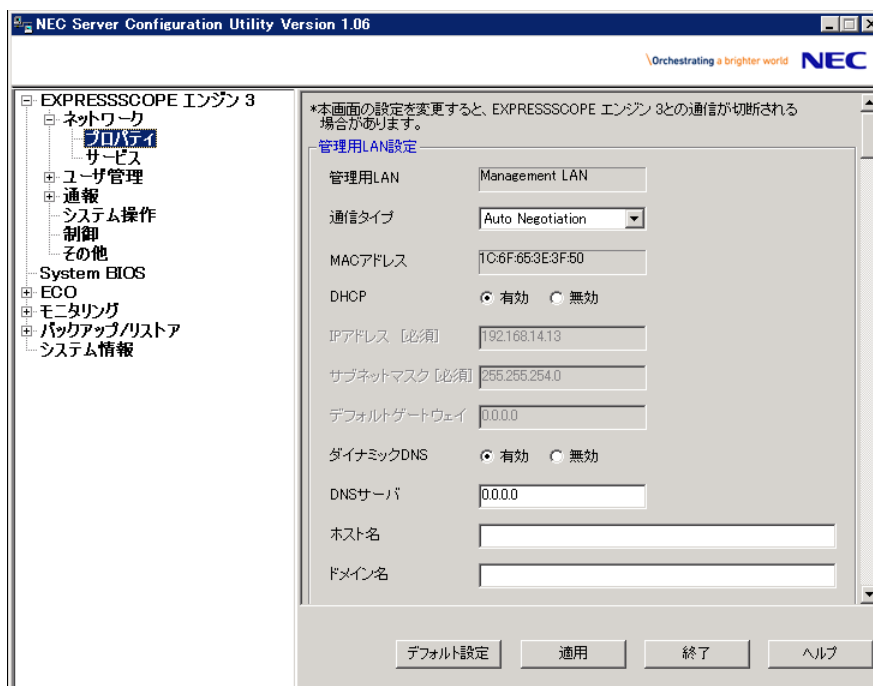
*1: 本操作によってデータが失われる可能性があります。

*2: 本操作は、BMC の機能が正しく動作しないときなどで使用してください。本操作によって BMC の設定値は変更されません。

*3: 本操作実行後の数分間にシステムのシャットダウンやリポート等の各種操作を実行すると、装置によってはハードウェア異常が誤検出される場合があります。詳細は各装置のユーザーズガイドを参照してください。

4.2.1 ネットワーク・プロパティ

ネットワーク環境の表示と設定を行います。



項目名	意味	デフォルト値
管理用 LAN 設定	管理用 LAN の設定です。	
管理用 LAN	BMC が使用する LAN ポートを表示、設定します。本設定の変更は、Off-line TOOL の Server Configuration Utility でのみ可能です。 *1 *2 *14 Management LAN : BMC 専用の LAN ポートを使用します。 Shared BMC LAN : システム(OS)の LAN ポートを共有して使用します。	Management LAN
通信タイプ	管理用 LAN の通信タイプを表示、設定します。管理用 LAN が "Shared BMC LAN" の場合、本設定の変更は Off-line TOOL の Server Configuration Utility でのみ可能です。 *1 *14 Auto Negotiation : 最適な設定で通信します。 10Gbps Full : 10Gbps の速度で、全二重通信します。 10Gbps Half : 10Gbps の速度で、半二重通信します。 1Gbps Full : 1Gbps の速度で、全二重通信します。 1Gbps Half : 1Gbps の速度で、半二重通信します。 100Mbps Full : 100Mbps の速度で、全二重通信します。 100Mbps Half : 100Mbps の速度で、半二重通信します。 10Mbps Full : 10Mbps の速度で、全二重通信します。 10Mbps Half : 10Mbps の速度で、半二重通信します。	Auto Negotiation
MAC アドレス	管理用 LAN の MAC アドレスを表示します。	
DHCP	管理用 LAN が DHCP サーバから IP アドレスを自動的に取得する機能の有効/無効を指定します。有効を指定した場合、登録後に「IP アドレス」、「サブネットマスク」、「デフォルトゲートウェイ」の項目に BMC が DHCP サーバから取得した値が設定されます。	ブレードサーバ : 有効 その他のサーバ : 無効
IP アドレス	管理用 LAN の IP アドレスを設定します。 *4	192.168.1.1
サブネットマスク	管理用 LAN のサブネットマスクを設定します。 *3 *4	255.255.255.0
デフォルトゲートウェイ	管理用 LAN のデフォルトゲートウェイの IP アドレスを設定します。 *4 この項目を設定した場合は、ゲートウェイをネットワークに接続した状態でコンフィグレーション情報を登録してください。	0.0.0.0
ダイナミック DNS	ダイナミック DNS の有効/無効を選択します。 *5	無効
DNS サーバ	DNS サーバを設定します。	0.0.0.0
ホスト名	ホスト名を設定します。 *6 *7	空白
ドメイン名	ドメイン名を設定します。 *7	空白
IPv6 設定	IPv6 の設定です。 *10	
IPv6	IPv6 の有効/無効を選択します。	無効
IPv6 アドレス割り当てモード	IPv6 のアドレス割り当てを静的/動的から選択します。 *11	動的

IPv6 リンクローカルアドレス	リンクローカルアドレスを表示します。 *11	
IPv6 グローバルアドレス	グローバルアドレスを表示します。 *11 *12	
IPv6 静的アドレス	静的アドレスを設定します。 *11 *13	0::0
IPv6 プレフィックス長	プレフィックス長を設定します。 *11 *13	64
IPv6 ゲートウェイアドレス	ゲートウェイアドレスを設定します。 *11 *13	0::0
IPv6 DNS サーバアドレス	DNS サーバアドレスを設定します。 *11 *15	0::0
アクセス制限設定	アクセス制限の設定です。	
制限タイプ	制限タイプを選択します。 制限無し : BMC へのアクセスを制限しません。 許可アドレス : BMC へのアクセスを許可する IP アドレスを設定します。 拒否アドレス : BMC へのアクセスを拒否する IP アドレスを設定します。	制限なし
IP アドレス	管理用 LAN へのアクセスを許可または拒否する IP アドレスを設定します。 *8 *9	空白

*1: 装置が変更をサポートしている場合、サポートしている通信タイプが選択肢に表示され、設定することができます。

*2: "Shared BMC LAN" を設定した場合、BMC 専用の LAN ポートは使用できません。"Shared BMC LAN" を設定した場合、システム(OS)の LAN ポートを共有して使用するために、システム(OS)の LAN の負荷により BMC が使用する LAN の性能が低下する可能性があります。また、BMC が使用する LAN の負荷によりシステム(OS)の LAN の性能が低下する可能性があります。

*3: サブネットマスクとして不正な値を設定した場合は、「BMC 情報の設定に失敗しました」というエラーメッセージが表示されて設定できません。

*4: DHCP が "無効" の場合にのみ設定できます。

*5: DHCP が "有効" の場合にのみ設定できます。

*6: ホスト名は 63 文字まで設定が可能です。64 文字以上入力した場合は切り捨てて設定されます。

*7: ホスト名とドメイン名は、合わせて 255 文字以内で設定してください。

8: "許可" または "拒否" する IP アドレスの範囲を、"(カンマ)" で区切って記載します。ワイルドカードとして "" を使用できます。(例: "192.168.1.*,192.168.2.1,192.168.2.254")

*9: 制限タイプが "許可" または "拒否" の場合にのみ設定できます。255 文字まで設定可能です。

*10: ブレードサーバの場合は未サポートとなります。

*11: IPv6 が "有効" の場合にのみ表示または設定できます。

*12: IPv6 アドレス割り当てモードが "動的" の場合にのみ表示されます。

*13: IPv6 アドレス割り当てモードが "静的" の場合にのみ設定できます。

*14: 以下の両方の設定がなされている場合、通信タイプを変更しても、その設定は反映されません。

- ・管理用 LAN 設定が "Shared BMC LAN" に設定されている。

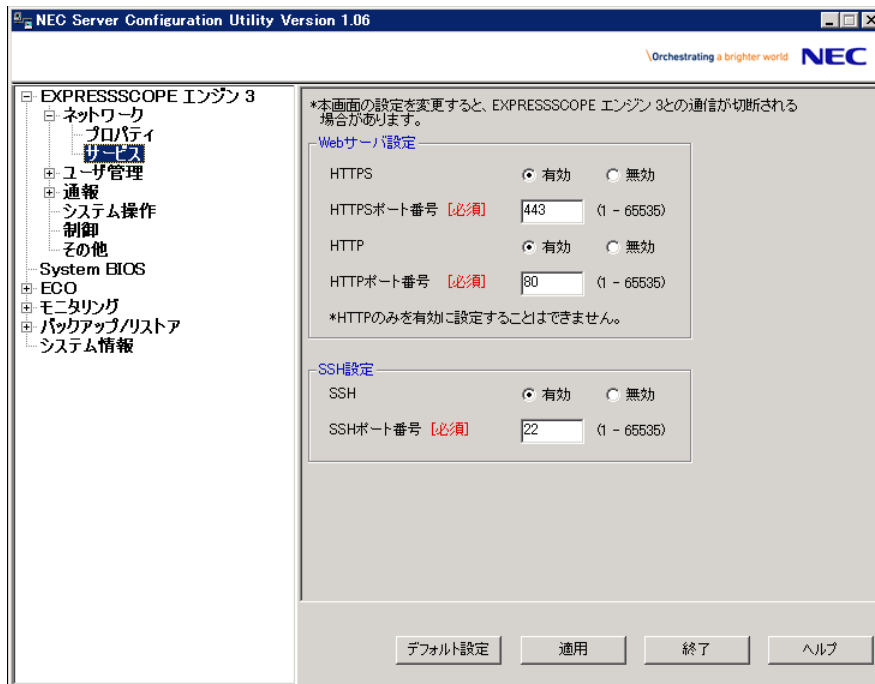
- ・BIOS SETUP (POST で<F2>押下) の Boot Mode 設定が "UEFI" に設定されている。

通信タイプの設定変更は、Boot Mode が "Legacy" の環境でのみ反映されます。そのため、UEFI 環境で変更するには、BIOS SETUP で Boot Mode 設定を "Legacy" に変更した後に、通信タイプの設定を変更し、再度 Boot Mode 設定を "UEFI" に変更してください。

*15: 装置によってはサポートしていない場合があります。サポートしていない場合は、表示されません。

4.2.2 ネットワーク・サービス

ネットワークサービスの種類一覧の表示と設定を行います。



項目名	意味	デフォルト値
Web サーバ設定	Web サーバの設定です。	
HTTPS	HTTPS の有効／無効を選択します。 *1	有効
HTTPS ポート番号	HTTPS ポート番号を設定します。 *2 *3	443
HTTP	HTTP の有効／無効を選択します。 *1	有効
HTTP ポート番号	HTTP ポート番号を設定します。 *2 *3	80
SSH 設定	SSH の設定です。	
SSH	SSH の有効／無効を選択します。	有効
SSH ポート番号	SSH ポート番号を設定します。 *2 *3	22

*1: HTTP を有効にすると、HTTPS も自動で有効となります。HTTP だけを有効にすることはできません。

*2: 各サービスが有効の場合にのみ設定できます。

*3: 各サービスのポート番号は重複させることができません。

4.2.3 ユーザアカウント

ユーザ設定の管理を行います。最大 12 ユーザまで登録することができます。



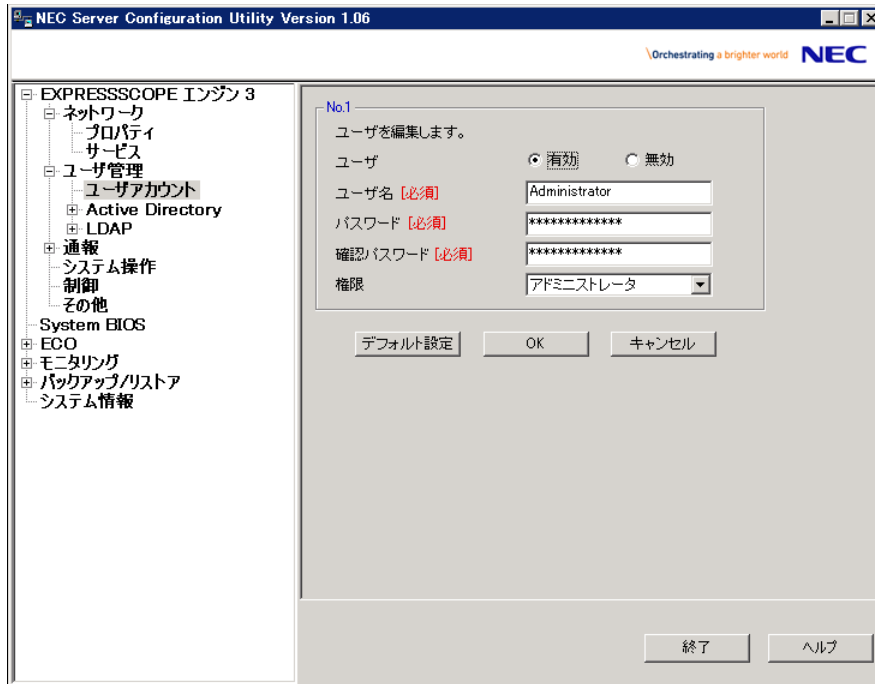
項目名	意味
ユーザアカウント設定	登録されているユーザの一覧を表示します。
No	ユーザに割り当てられている番号を表示します。
ユーザ名	ユーザ名を表示します。
権限	ユーザの権限を表示します。
編集	ユーザ情報を追加または変更します。
削除	ユーザ情報を削除します。 *1

*1: ユーザが存在する場合にのみ削除可能です。

チェック:

- Off-line TOOL では、ユーザの削除は、次のユーザ設定画面で行います。
-

選択したユーザの設定を行います。



項目名	意味	デフォルト値
No. X	ユーザ(番号 X)の設定です。	
ユーザ	ユーザの有効/無効を選択します。 *1	有効
ユーザ名	ユーザ名を設定します。 *2	空白
パスワード	パスワードを設定します。 *3	空白
確認パスワード	確認用にパスワードと同じ文字を設定します。 *3	空白
権限	ユーザの権限を選択します。 *4 アドミニストレータ オペレータ ユーザ	アドミニストレータ

*1: ユーザが存在する場合にのみ設定可能です。

*2: 15文字までの半角英数字、「-」及び「_」のみ設定することができます。ただし、「-」はユーザ名の先頭には使用できません。また、「null」、「MWA」、「AccessByEM-Poem」、「InternalUseOnly」及び既に他の番号に登録されている名前は使用できません。

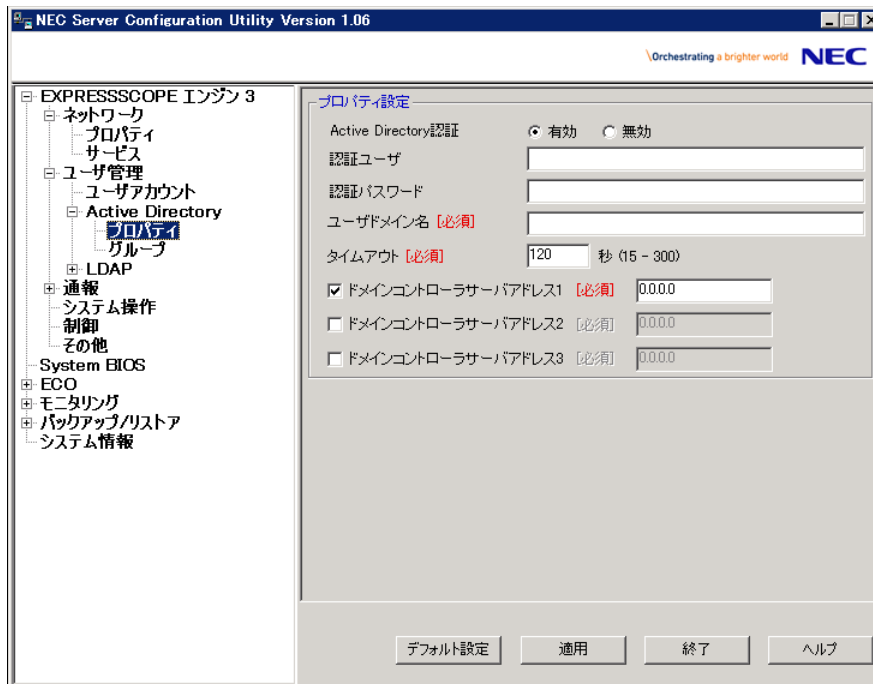
*3: 19文字までの半角英数字で、「 」(空白)、「"」、「&」、「?」、「=」、「#」及び「¥」を除く ASCII文字列を設定することができます。

*4: 権限は以下の通りです。

権限	意味
アドミニストレータ	管理者権限を持つユーザです。全ての操作を行えます。
オペレータ	装置の操作を行えるユーザです。セッション管理、ライセンス登録、リモートKVMメディア、設定全般、アップデートは行えません。
ユーザ	一般的なユーザです。IPMI 情報を表示する以外の操作は行えません。

4.2.4 Active Directory・プロパティ

Active Directory に関する表示と設定を行います。



項目名	意味	デフォルト値
プロパティ設定	Active Directory の設定です。	
Active Directory 認証	Active Directory 認証の有効/無効を選択します。	無効
認証ユーザ	Active Directory 認証ユーザを設定します。 *1 *2	空白
認証パスワード	Active Directory 認証パスワードを設定します。 *1 *3	空白
ユーザドメイン名	ユーザドメイン名を設定します。 *1 *4	空白
タイムアウト	ドメインコントローラとの接続タイムアウト時間を設定します。 *1	120
ドメインコントローラサーバ1	ドメインコントローラサーバ 1 の有効/無効を選択します。 *1 *5	有効
サーバアドレス 1	ドメインコントローラサーバ 1 の IP アドレスを設定します。 *1 *6	空白
ドメインコントローラサーバ2	ドメインコントローラサーバ 2 の有効/無効を選択します。 *1 *5	無効
サーバアドレス 2	ドメインコントローラサーバ 2 の IP アドレスを設定します。 *1 *6	空白
ドメインコントローラサーバ3	ドメインコントローラサーバ 3 の有効/無効を選択します。 *1 *5	無効
サーバアドレス 3	ドメインコントローラサーバ 3 の IP アドレスを設定します。 *1 *6	空白

*1: Active Directory 認証が "有効" の場合にのみ設定できます。

2: 64 文字までの半角英数字で、「 」(空白)、「,」、「:」、「|」、「=」、「+」、「」、「?」、「<」、「>」、「@」、「”」、「/」、「¥」、「[]」及び「[]」を除く ASCII 文字列を設定することができます。

*3: 6 文字以上 127 文字以下で、「 」(空白)を除く ASCII 文字列を設定することができます。

*4: 255 文字までの半角英数字、「-」、「_」及び「.」のみ設定することができます。

*5: Active Directory 認証が "有効" の場合は、1 つ以上のドメインコントローラサーバを有効にす

る必要があります。

*6: ドメインコントローラサーバが "有効" の場合にのみ設定できます。

4.2.5 Active Directory ・ グループ

Active Directory グループの管理を行います。最大 5 グループまで登録することができます。



項目名	意味
グループ設定 *1	登録されているグループの一覧を表示します。
No	グループに割り当てられている番号を表示します。
グループ名	グループ名を表示します。
グループドメイン	グループのドメイン名を表示します。
権限	グループの権限を表示します。
編集 *1	グループ情報を追加または変更します。
削除 *1 *2	グループ情報を削除します。

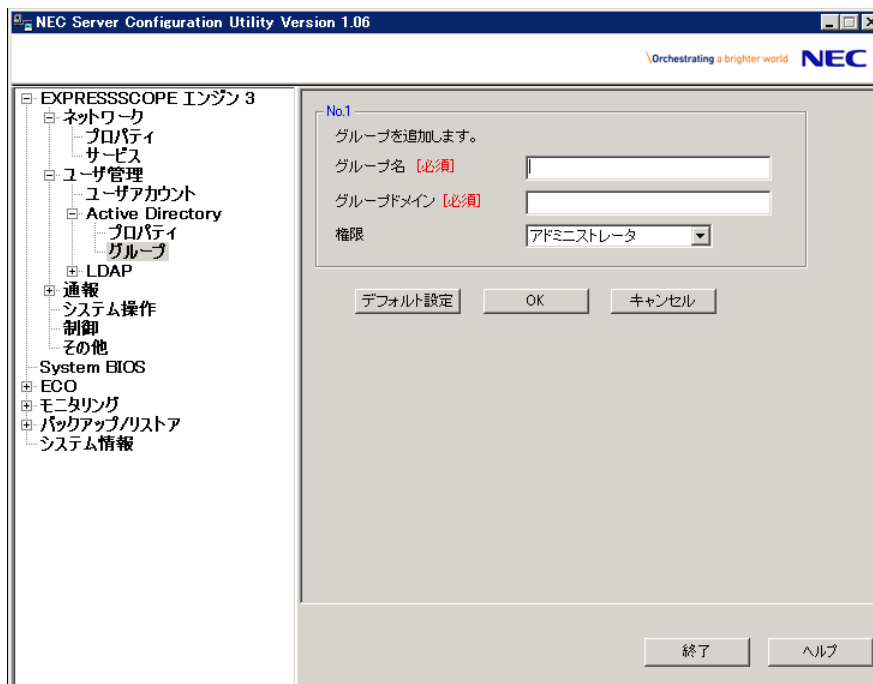
*1: Active Directory 認証が "有効" の場合にのみ設定できます。

*2: グループが存在する場合にのみ削除可能です。

チェック：

- Off-line TOOLでは、グループの削除は、次のグループ設定画面で行います。
-

選択したグループの設定を行います。



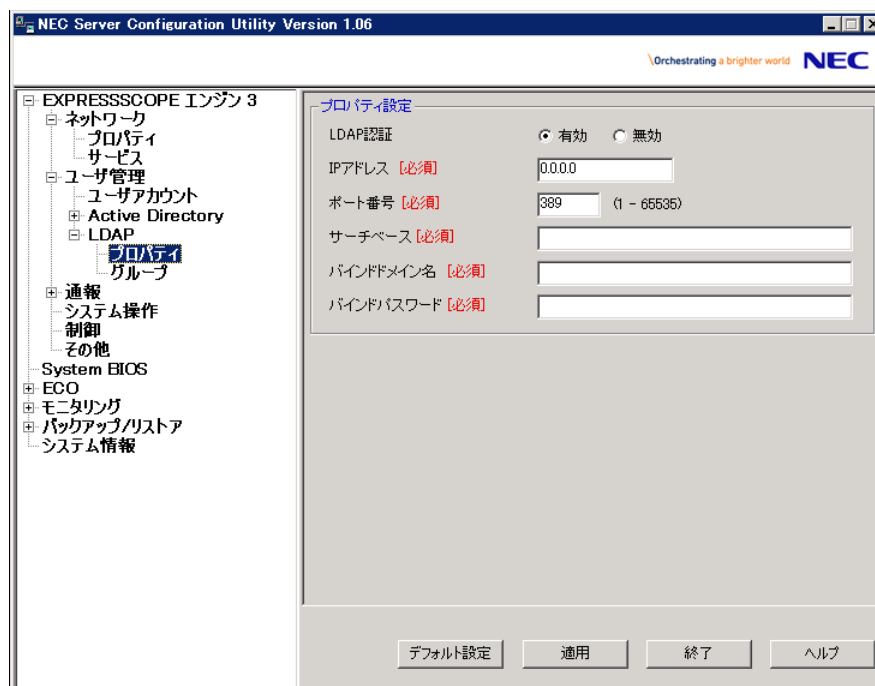
項目名	意味	デフォルト値
No. X	Active Directoryグループ(番号 X)の設定です。	
グループ名	グループ名を設定します。 *1	空白
グループドメイン	グループドメインを設定します。 *2	空白
権限	グループの権限を選択します。 アドミニストレータ オペレータ ユーザ	アドミニストレータ

*1: 255文字までの半角英数字、「-」及び「_」のみ設定することができます。

*2: 255文字までの半角英数字、「-」、「_」及び「.」のみ設定することができます。

4.2.6 LDAP・プロパティ

LDAP (Lightweight Directory Access Protocol) に関する表示と設定を行います。



項目名	意味	デフォルト値
プロパティ設定	LDAP の設定です。	
LDAP 認証	LDAP 認証の有効/無効を選択します。	無効
IP アドレス	IP アドレスを設定します。 *1	0.0.0.0
ポート番号	LDAP ポート番号を設定します。 *1	389
サーチベース	LDAP 認証で使用するサーチベースを設定します。 *1 *2	空白
バインドドメイン名	LDAP 認証で使用するバインドドメインを設定します。 *1 *2	空白
バインドパスワード	LDAP 認証で使用するバインドパスワードを設定します。 *1 *3	空白

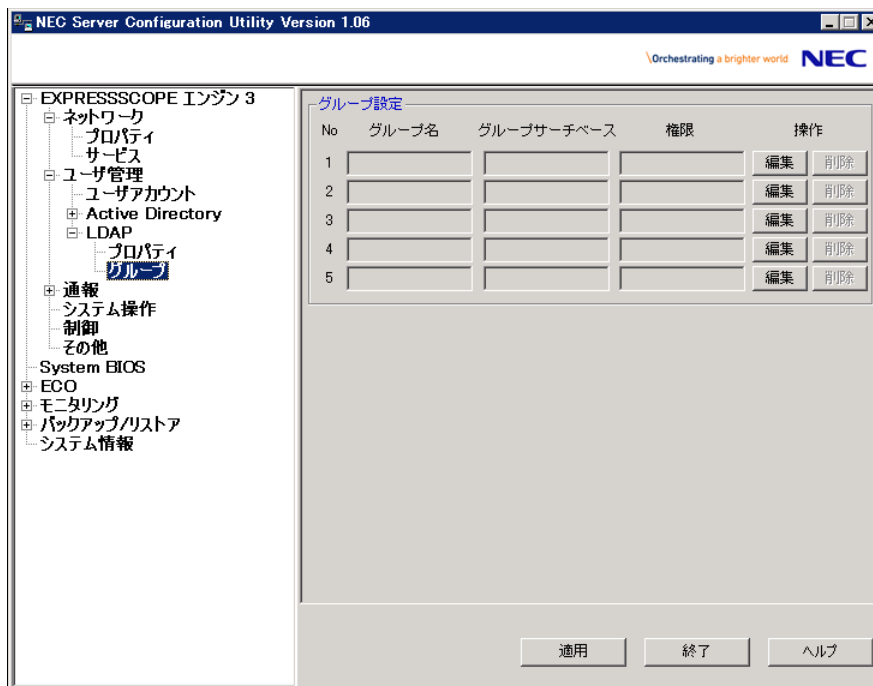
*1: LDAP 認証が有効の場合にのみ設定できます。

*2: 4文字以上 62文字以下の半角英数字、「-」、「_」、「.」、「,」及び「=」のみ設定することができます。

*3: 4文字以上 31文字以下の半角英数字で、「"」、「#」及び「¥」を除く文字列を設定することができます。

4.2.7 LDAP・グループ

LDAP グループの管理を行います。最大 5 グループまで登録することができます。



項目名	意味
グループ設定 *1	登録されているグループの一覧を表示します。
No	グループに割り当てられている番号を表示します。
グループ名	グループ名を表示します。
グループサーチベース	グループのサーチベースを表示します。
権限	グループの権限を表示します。
編集 *1	グループ情報を追加または変更します。
削除 *1 *2	グループ情報を削除します。

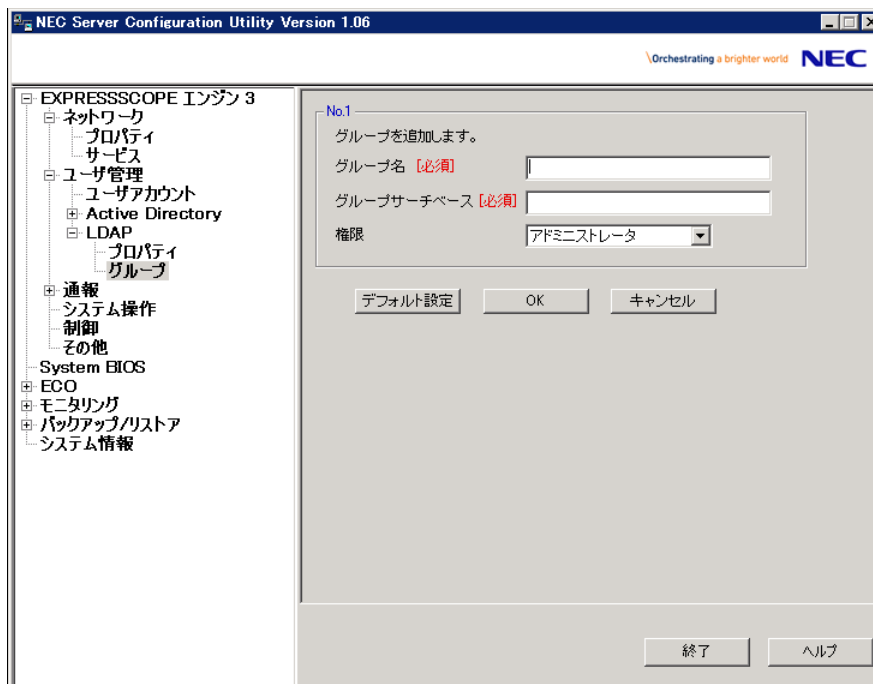
*1: LDAP 認証が "有効" の場合にのみ設定できます。

*2: グループが存在する場合にのみ削除可能です。

チェック：

- Off-line TOOL では、グループの削除は、次のグループ設定画面で行います。
-

選択したグループの設定を行います。



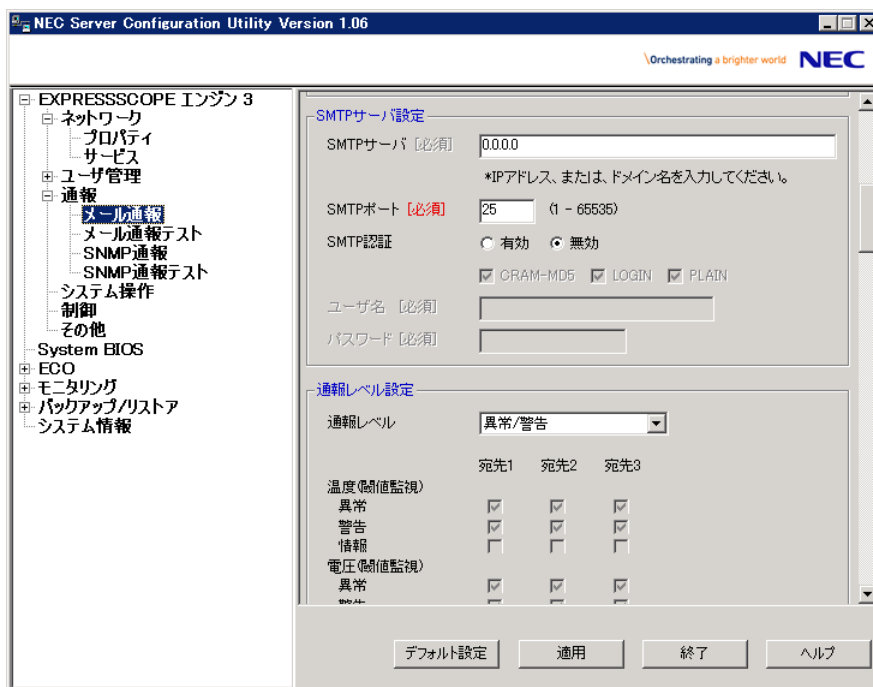
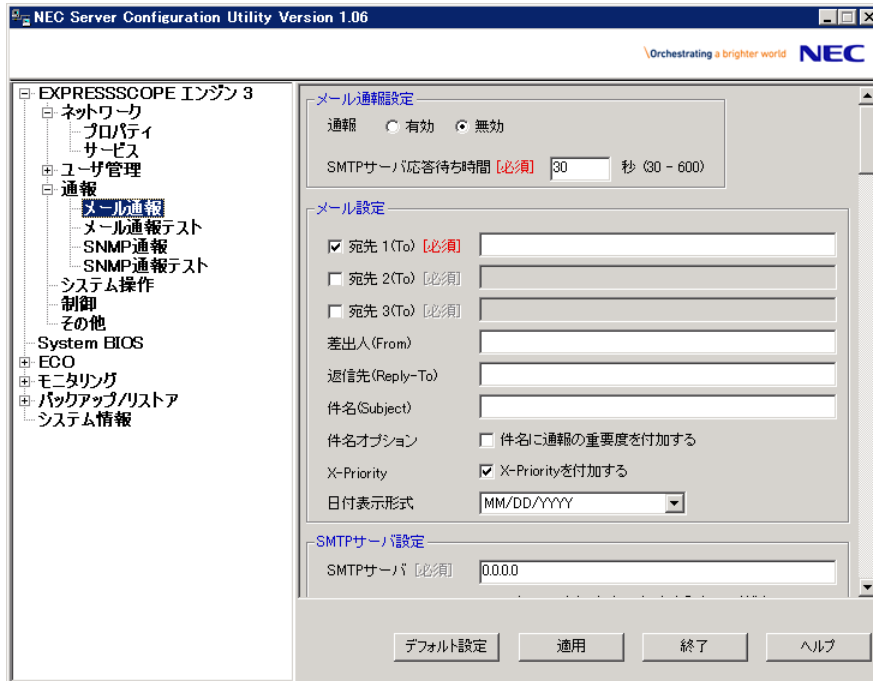
項目名	意味	デフォルト値
No. X	LDAP グループ(番号 X)の設定です。	
グループ名	グループ名を設定します。 *1	空白
グループサーチベース	グループサーチベースを設定します。 *2	空白
権限	グループの権限を選択します。 アドミニストレータ オペレータ ユーザ	アドミニストレータ

*1: 255 文字までの半角英数字、「-」及び「_」のみ設定することができます。

*2: 4 文字以上 62 文字以下の半角英数字、「-」、「_」、「.」、「,」及び「=」のみ設定することができます。

4.2.8 メール通報

Eメールによる通報の表示と設定を行います。



項目名	意味	デフォルト値
メール通報設定	メール通報の設定です。	
通報	通報の有効/無効を選択します。	無効
SMTP サーバ応答待ち 時間	E メール送信を行って SMTP サーバへの接続が成功する までのタイムアウト時間を設定します。	30
メール設定	メールヘッダの設定です。	
宛先 1 (To)	宛先 1 の有効/無効を選択します。 *1	有効
宛先 1 メールアドレス	宛先 1 のメールアドレスを設定します。 *2 *3	空白
宛先 2 (To)	宛先 2 の有効/無効を選択します。 *1	無効
宛先 2 メールアドレス	宛先 2 のメールアドレスを設定します。 *2 *3	空白
宛先 3 (To)	宛先 3 の有効/無効を選択します。 *1	無効
宛先 3 メールアドレス	宛先 3 のメールアドレスを設定します。 *2 *3	空白
差出人 (From)	差出人のメールアドレスを設定します。 *3	空白
返信先 (Reply-To)	返信先のメールアドレスを設定します。 *3	空白
件名 (Subject)	件名を設定します。 *4	空白
件名オプション	件名への重要度付加の有効/無効を選択します。	無効
X-Priority	X-Priority 付加の有効/無効を選択します。	有効
日付表示形式	日付表示形式を選択します。 MM/DD/YYYY DD/MM/YYYY YYYY/MM/DD	MM/DD/YYYY
SMTP サーバ設定	SMTP サーバの設定です。	
SMTP サーバ	SMTP サーバを設定します。 *5	0.0.0.0
SMTP ポート	SMTP ポート番号を設定します。	25
SMTP 認証	SMTP 認証の有効/無効を選択します。	無効
CRAM-MD5	認証方式(CRAM-MD5)の有効/無効を選択します。 *6 *7	有効
LOGIN	認証方式(LOGIN)の有効/無効を選択します。 *6 *7	有効
PLAIN	認証方式(PLAIN)の有効/無効を選択します。 *6 *7	有効
ユーザ名	SMTP ユーザ名を設定します。 *6 *8	空白
パスワード	SMTP パスワードを設定します。 *6 *9	空白
通報レベル設定	通報レベルの設定です。	
通報レベル	通報されるイベントの種類を設定します。 *10	異常/警告

*1: メール通報が "有効" の場合は、1つ以上の宛先を有効にする必要があります。

*2: 宛先が "有効" の場合にのみ設定できます。

*3: 255 文字までの半角英数字、「-」、「_」、「.」及び「@」のみ設定することができます。

*4: 63 文字までの半角英数字で、「+」、「"」、「?」、「=」、「<」、「>」、「#」及び「¥」を除く文字列を設定することができます。

*5: 255 文字までの半角英数字、「-」、「_」及び「.」のフルドメイン名、または IP アドレス (IPv4 または IPv6) を設定することができます。IPv6 は装置がサポートしている場合のみ設定できます。

*6: SMTP 認証が "有効" の場合にのみ設定できます。

*7: SMTP 認証が "有効" の場合は、1つ以上の認証方式を有効にする必要があります。

*8: 64 文字までの半角英数字で、「 」(空白)、「"」、「?」、「=」、「<」、「>」、「#」及び「¥」を除く文字列を設定することができます。

*9: 19 文字までの半角英数字で、「 」(空白)、「"」、「?」、「=」、「<」、「>」、「#」及び「¥」を除く文字列を設定することができます。

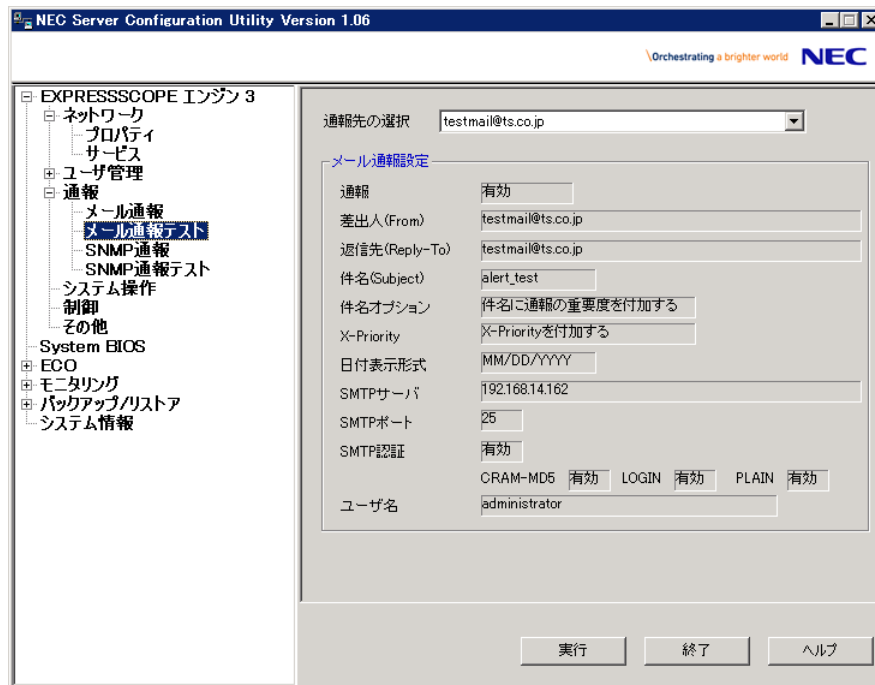
*10: 通報レベルは以下の通りです。

通報レベル	意味
異常	各センサタイプで "異常" を検出した場合、宛先 1~3 のうちチェックを入れた宛先に通報する設定になります。
異常/警告	各センサタイプで "異常" または "警告" を検出した場合、宛先 1~3 のうちチェックを入れた宛先に通報する設定になります。
異常/警告/情報	各センサタイプで "異常"、"警告" または "情報" を検出した場合、宛先 1~3 のうちチェックを入れた宛先に通報する設定になります。
個別設定	各センサタイプに、通報するイベント、宛先を任意に設定することができます。

4.2.9 メール通報テスト

Eメールによる通報テストを行います。

通報先を選択し、実行ボタンをクリックしてください。



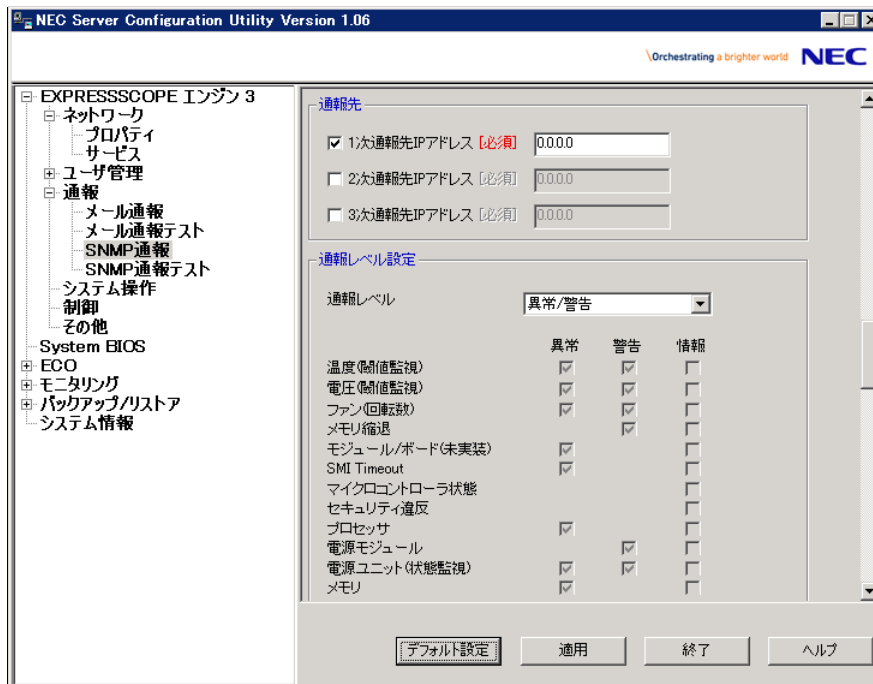
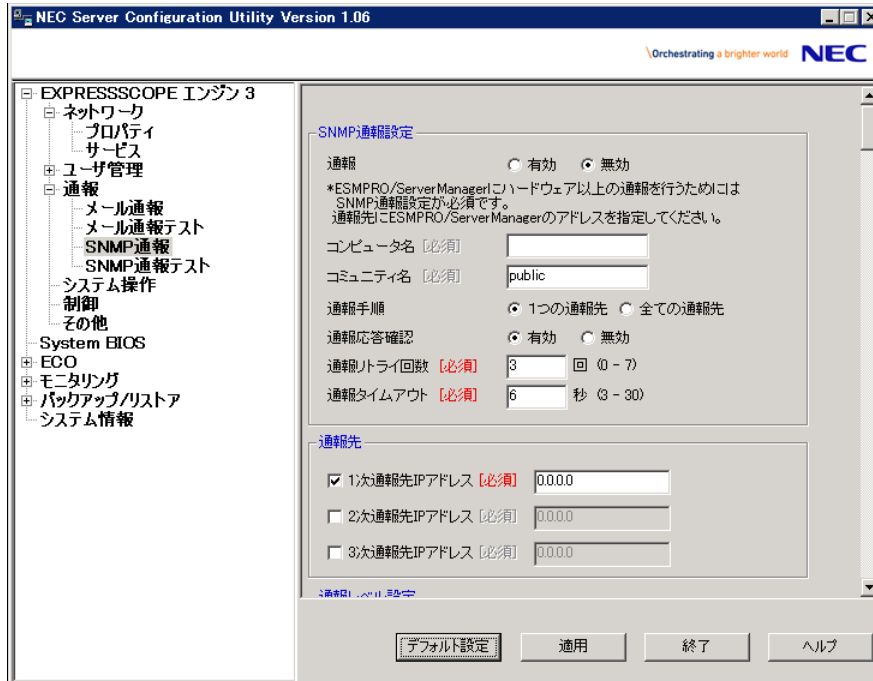
項目名	意味
通報先の選択	通報先を選択します。 *1
メール通報設定	現在の通報設定内容を表示します。 *2

*1: 「4.2.8 メール通報」で1つ以上の宛先を設定しておく必要があります。

*2: 「4.2.8 メール通報」で設定した内容が表示されます。

4.2.10 SNMP 通報

SNMP による通報の表示と設定を行います。



項目名	意味	デフォルト値
SNMP 通報設定	SNMP 通報の設定です。	
通報 *1	通報の有効/無効を選択します。	無効
コンピュータ名	コンピュータ名を設定します。 *2	空白
コミュニティ名	コミュニティ名を設定します。 *2	public
通報手順	通報手順を1つの連絡先/全ての通報先から選択します。	1つの通報先
通報応答確認	通報応答確認の有効/無効を選択します。	有効
通報リトライ回数	通報リトライ回数を設定します。 *3	3
通報タイムアウト	通報タイムアウトを設定します。 *3	6
通報先	通報先の設定です。	
1次通報先	1次通報先の有効/無効を選択します。 *4	有効
IPアドレス	1次通報先 IP アドレスを設定します。 *5	0.0.0.0
2次通報先	2次通報先の有効/無効を選択します。 *4	無効
IPアドレス	2次通報先 IP アドレスを設定します。 *5	0.0.0.0
3次通報先	3次通報先の有効/無効を選択します。 *4	無効
IPアドレス	3次通報先 IP アドレスを設定します。 *5	0.0.0.0
通報レベル設定	通報レベルの設定です。	
通報レベル	通報されるイベントの種類を設定します。 *6	異常/警告

*1: PEF(Platform Event Filter)設定 が "無効" の場合は、通報できません。

*2: 16文字までの半角英数字のみ設定することができます。

*3: 通報応答確認が "有効" の場合にのみ設定できます。

*4: SNMP 通報が "有効" の場合は、1つ以上の通報先を有効にする必要があります。

*5: 通報先が "有効" の場合にのみ設定できます。

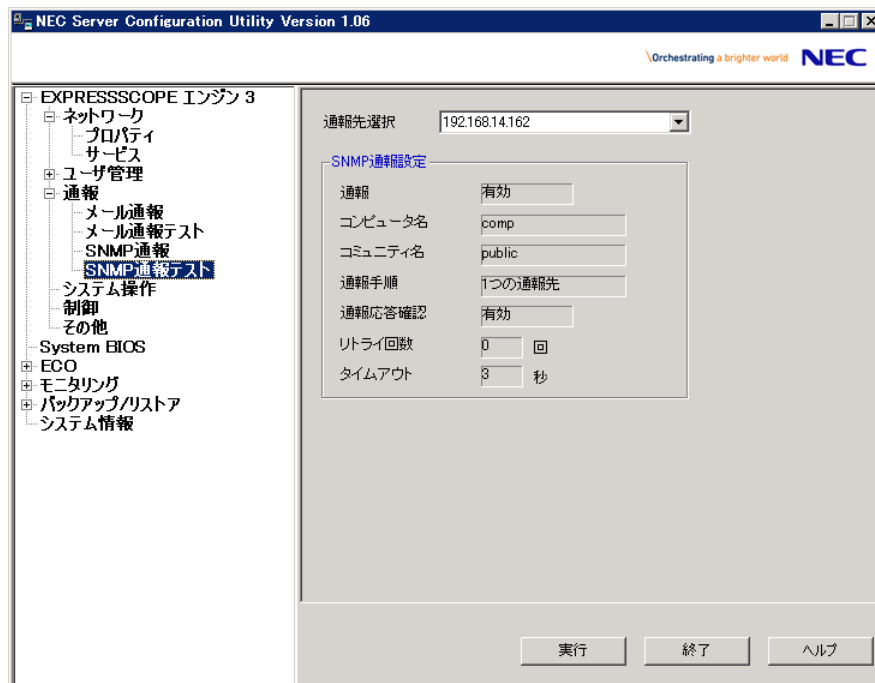
*6: 通報レベルは以下の通りです。

通報レベル	意味
異常	各センサタイプで "異常" を検出した場合、チェックを入れた通報先に、通報する設定になります。
異常/警告	各センサタイプで "異常" または "警告" を検出した場合、チェックを入れた通報先に、通報する設定になります。
異常/警告/情報	各センサタイプで "異常"、"警告" または "情報" を検出した場合、チェックを入れた通報先に、通報する設定になります。
個別設定	各センサタイプに、通報するイベントを任意に設定することができます。

4.2.11 SNMP 通報テスト

SNMPによる通報テストを行います。

通報先を選択し、実行ボタンをクリックしてください。



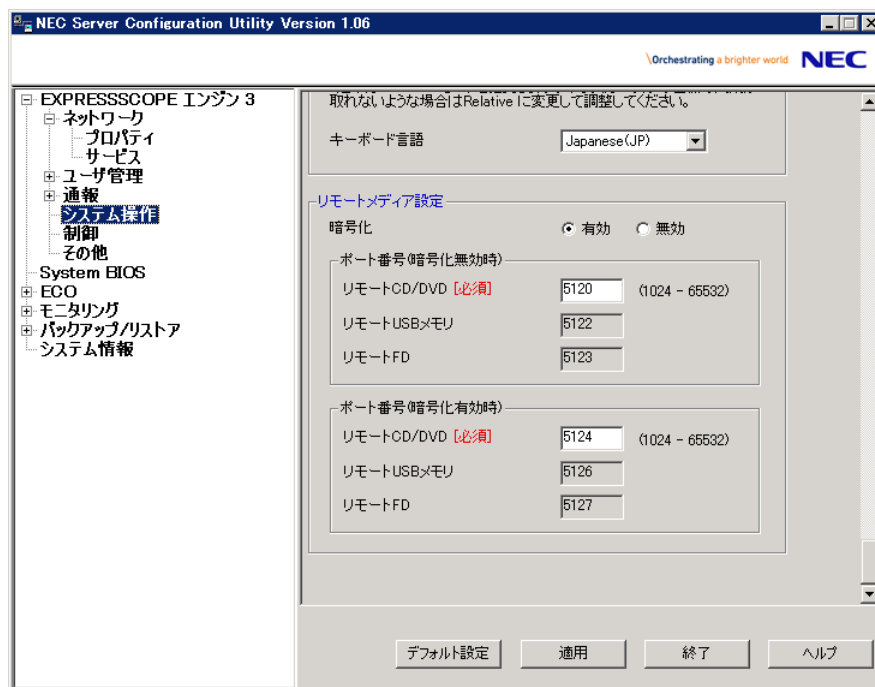
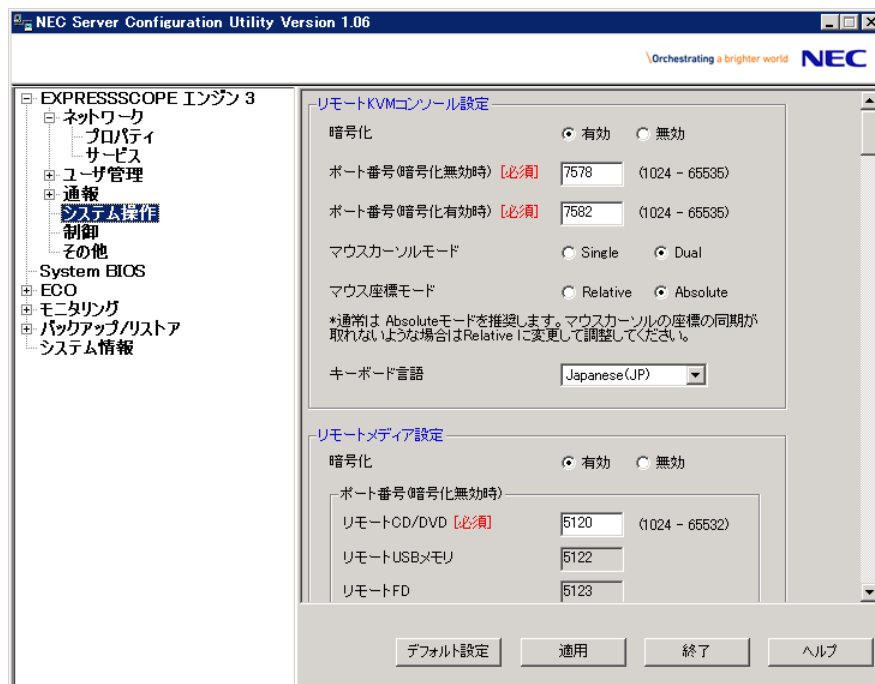
項目名	意味
通報先選択	通報先を選択します。 *1
SNMP 通報設定	現在の通報設定内容を表示します。 *2

*1: 「4.2.10 SNMP 通報」で1つ以上の宛先を設定しておく必要があります。

*2: 「4.2.10 SNMP 通報」で設定した内容が表示されます。

4.2.12 システム操作

リモート KVM コンソール及びリモートメディアに関する設定を行います。



項目名	意味	デフォルト値
リモート KVM コンソール設定	リモート KVM コンソールの設定です。	
暗号化	暗号化の有効/無効を選択します。	有効
ポート番号(暗号化無効時)	暗号化無効時のポート番号を設定します。 *1	7578
ポート番号(暗号化有効時)	暗号化有効時のポート番号を設定します。 *1	7582
マウスカーソルモード	マウスカーソルの表示モードを選択します。 Single Dual	Dual
マウス座標モード	マウスカーソルの座標移動の表現方法を選択します。 *2 Relative Absolute	Absolute
キーボード言語	キーボード言語を選択します。 Japanese(JP) English(US) French(FR) German(DE)	Windows, Linux : Japanese(JP) *3 Offline : English(US)
リモートメディア設定	リモートメディアの設定です。	
暗号化	暗号化の有効/無効を選択します。	有効
リモート CD/DVD ポート番号(暗号化無効時)	暗号化無効時のリモート CD/DVD ポート番号を設定します。 *1	5120
リモート USB メモリポート番号(暗号化無効時)	暗号化無効時のリモート USB メモリポート番号を表示します。(リモート CD/DVD ポート番号 + 2)	
リモート FD ポート番号(暗号化無効時)	暗号化無効時のリモート FD ポート番号を表示します。(リモート CD/DVD ポート番号 + 3)	
リモート CD/DVD ポート番号(暗号化有効時)	暗号化有効時のリモート CD/DVD ポート番号を設定します。 *1	5124
リモート USB メモリポート番号(暗号化有効時)	暗号化有効時のリモート USB メモリポート番号を表示します。(リモート CD/DVD ポート番号 + 2)	
リモート FD ポート番号(暗号化有効時)	暗号化有効時のリモート FD ポート番号を表示します。(リモート CD/DVD ポート番号 + 3)	

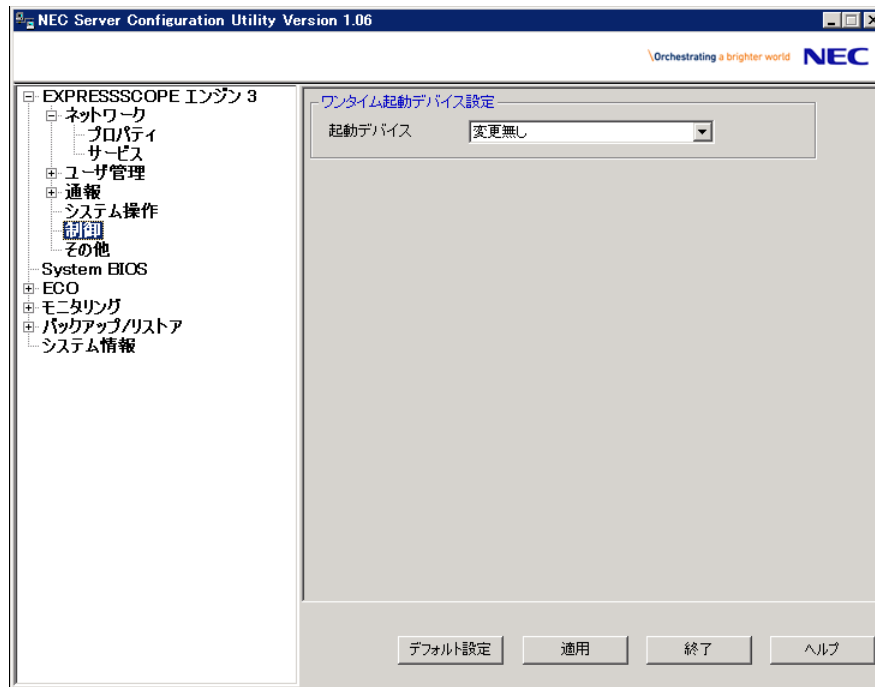
*1: 各ポート番号は重複させることができません。

*2: 通常は Absolute を推奨します。マウスカーソルの座標の同期が取れないような場合は Relative に変更して調整してください。

*3: OS の言語が日本語以外の場合は English(US)になります。

4.2.13 制御

サーバの制御を行います。設定値は、次にサーバが起動するときに適用されます。



項目名	意味	デフォルト値
ワнтаイム起動デバイス設定	ワнтаイム起動デバイスの設定です。	
起動デバイス *1	次回起動するデバイスを選択します。	変更無し

*1: 起動デバイスは以下の通りです。

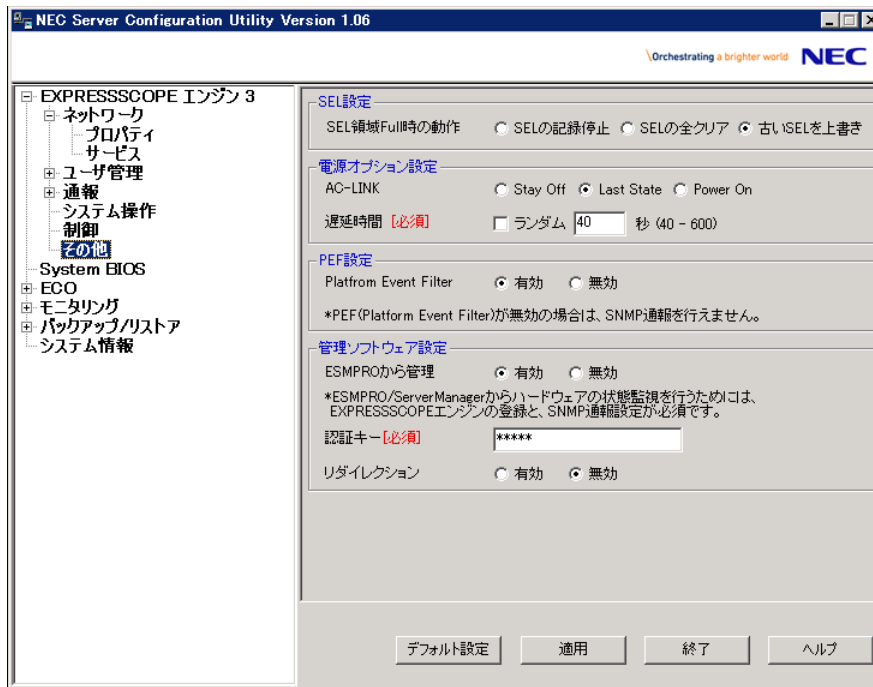
起動デバイス	意味
変更無し	サーバのシステム BIOS の設定に従います。
PXE	PXE Boot を行います。
HDD	サーバに接続されたハードディスクドライブから起動します。
CD/DVD	サーバに接続された CD/DVD ドライブから起動します。
リモート FD	リモートメディア機能で接続されたフロッピーディスクドライブ(メディア)から起動します。
リモート CD/DVD	リモートメディア機能で接続された CD/DVD ドライブ(メディア)から起動します。
リモート USB メモリ	リモートメディア機能で接続された USB メモリから起動します。
FD	サーバに接続されたフロッピーディスクドライブ、またはリムーバブルメディアから起動します。

 チェック:

- Off-line TOOL には、この設定はありません。
-

4.2.14 その他

様々な機能の設定を行います。



項目名	意味	デフォルト値
SEL 設定	SEL の設定です。	
SEL 領域 Full 時の動作	SEL 領域が一杯になった場合の動作を選択します。 *1 SEL の記録停止 : それ以上の SEL を記録しない。 SEL の全クリア : SEL を全て削除し、改めて SEL 記録を行う。 古い SEL を上書き : 古い SEL を新しい SEL で上書きする。	古い SEL を上書き
電源オプション設定	電源オプションの設定です。	
AC-Link	AC-Link の設定を選択します。 *2 Stay Off : DC 電源オンを行わない。 Last State : AC 電源オフした時と同じ電源状態になる。 Power On : 常に DC 電源オンを行う。	Last State *2
遅延時間	遅延時間を指定、もしくは、ランダムを指定します。設定可能な値は、(最小値 ~ 600)です。 *3	最小値
PEF 設定	PEF の設定です。	
Platform Event Filter	Platform Event Filter の有効/無効を選択します。 *4	有効
管理ソフトウェア設定	管理ソフトウェアの設定です。	
ESMPRO から管理	ESMPRO から管理の有効/無効を選択します。 *5	現在の設定値
認証キー	認証キーを指定します。 *6 *7	guest
リダイレクション	リダイレクションの有効/無効を選択します。 *6 リダイレクションを有効に設定すると、System BIOS 設定のコンソールリダイレクションポートがシリアルポート B に設定されます。	有効

- *1: "古い SEL を上書き" から他の設定へ、または 他から "古い SEL を上書き" へ変更した場合、SEL はクリアされます。
- *2: System BIOS 設定の "Standby Power Save" が有効の場合、"Power On" に設定されます。この場合、デフォルト設定値も "Power On" となります。
- *3: AC-Link が "Stay Off" の場合、もしくは装置がブレードサーバの場合は設定できません。AC 電源オンから DC 電源オンするまでの遅延時間を指定します。最大 600(秒)まで設定できます。最小値は装置によって異なります。ランダムは、装置がサポートしている場合にのみ設定できます。
- *4: "無効" にした場合、SNMP 通報はできなくなります。
- *5: ESM/ServerManager(Ver.6以降)から、BMC を直接管理できるようにする場合、"有効" に設定します。有効に設定する場合は、必ず認証キーも設定してください。
- *6: "ESM から管理" が有効の場合にのみ設定できます。
- *7: ESM/ServerManager(Ver.6以降)から、管理対象サーバを管理する場合の認証キーです。16 文字までの半角英数字のみ設定することができます。

チェック :

- Off-line TOOL には、電源オプション設定はありません。
-

4.3 System BIOS

システム BIOS の設定表示を行います。各項目の詳細については、本体装置のユーザーズガイドを参照してください。設定値は、次にサーバが起動するときに適用されます。



項目名	意味	デフォルト設定値 *1
基本設定	システム BIOS の基本設定です。	
POST Error Pause	POST エラー停止の有効/無効を選択します。	有効
Memory Error *2	メモリエラー時の動作(Boot/Halt)を選択します。	Boot
CLI Setup *2	CLI Setup の有効/無効を選択します。	無効
Standby Power Save *2	Standby Power Save の有効/無効を選択します。	無効
Advanced Fan Control *2	ファン制御の有効/無効を選択します。	無効
Serial Port A 設定	シリアルポート A の設定です。	
Serial Port A	シリアルポート A の有効/無効を選択します。	有効
Serial A Base I/O	シリアルポート A の Base I/O アドレスを選択します。シリアルポート B と異なる値を選択してください。	3F8h
Serial A Interrupt	シリアルポート A の IRQ を選択します。シリアルポート B と異なる値を選択してください。	IRQ 4
Serial Port B 設定	シリアルポート B の設定です。	
Serial Port B	シリアルポート B の有効/無効を選択します。	有効
Serial B Base I/O	シリアルポート B の Base I/O アドレスを選択します。シリアルポート A と異なる値を選択してください。	2F8h
Serial B Interrupt	シリアルポート B の IRQ を選択します。シリアルポート A と異なる値を選択してください。	IRQ 3
Console Redirection 設定	コンソールリダイレクションの設定です。	
BIOS Redirection Port	BIOS リダイレクションポートを選択します。無効なシリアルポートは選択できません。	Disabled
Terminal Type	端末タイプを選択します。	VT-100+
Baud Rate	ボーレートを選択します。	115200
Data Bits	データビットを選択します。	8
Stop Bits	ストップビットを選択します。	1
Parity	パリティを選択します。	None
Flow Control	フロー制御を選択します。	Hardware RTS/CTS
Continue C.R. after POST	POST 後のコンソールリダイレクション継続の有効/無効を選択します。	有効

*1: 装置によっては値が異なる場合があります。

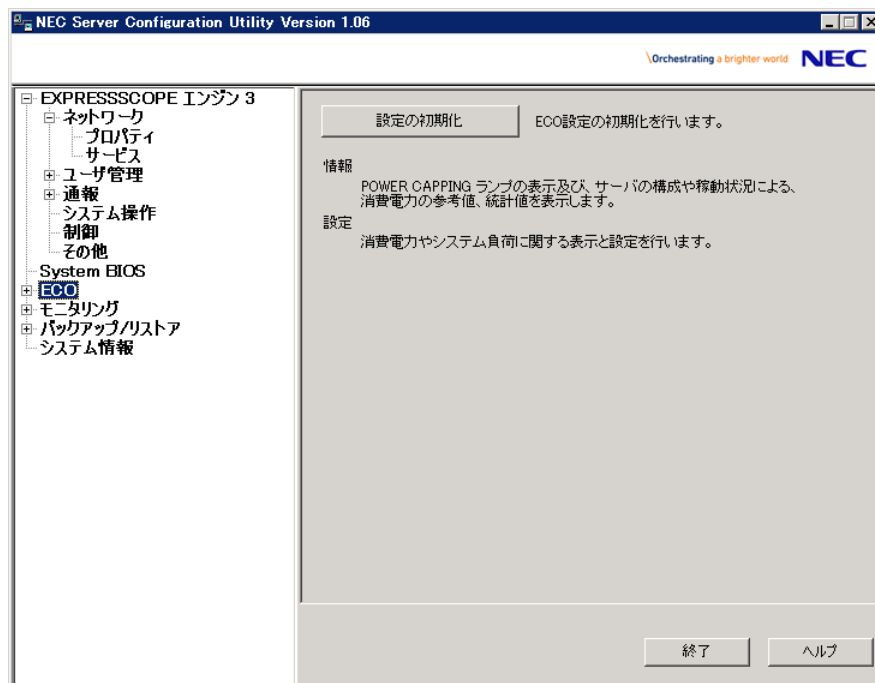
*2: 装置によってはサポートしていない場合があります。サポートしていない場合は、表示されません。

チェック:

- Off-line TOOLには、この設定はありません。
-

4.4 ECO

以下に、ECO の項目を示します。



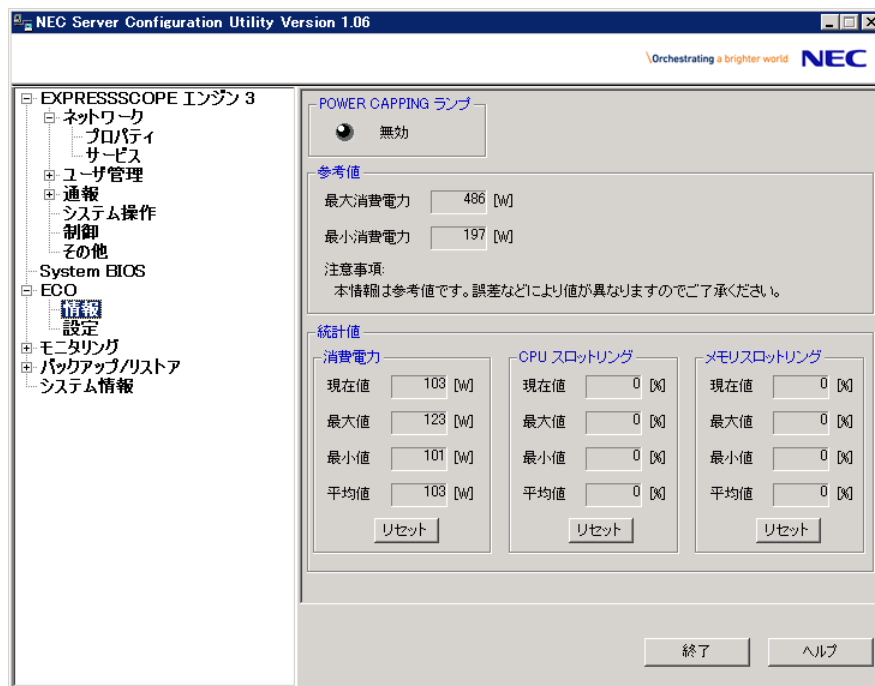
項目名	意味
設定の初期化	すべての ECO 設定を初期値に戻すことができます。

チェック：

- 対象サーバが本機能をサポートしていない場合は、ECO 画面は表示されません。
-

4.4.1 ECO 情報

システムの構成および稼動状況による、参考値、統計値などの情報を表示します。



項目名	意味
POWER CAPPING ランプ	POWER CAPPING の現在の状態を表示します。
最大消費電力 *1	システムの最大消費電力です。
最小消費電力 *1	システムの最小消費電力です。
消費電力	システムの消費電力を表示します。
現在値	現在の消費電力です。
最大値	単位時間あたりの最大消費電力です。
最小値	単位時間あたりの最小消費電力です。
平均値	単位時間あたりの消費電力平均値です。
CPU スロットリング *2	システムの CPU スロットリング率を表示します。
現在値	現在の CPU スロットリング率です。
最大値	単位時間あたりの最大 CPU スロットリング率です。
最小値	単位時間あたりの最小 CPU スロットリング率です。
平均値	単位時間あたりの CPU スロットリング率平均値です。
メモリスロットリング *2 *3	システムのメモリスロットリングを表示します。
現在値	現在のメモリスロットリング率です。
最大値	単位時間あたりの最大メモリスロットリング率です。
最小値	単位時間あたりの最小メモリスロットリング率です。
平均値	単位時間あたりの負荷メモリスロットリング率平均値です。
リセット	各統計値をリセットします。

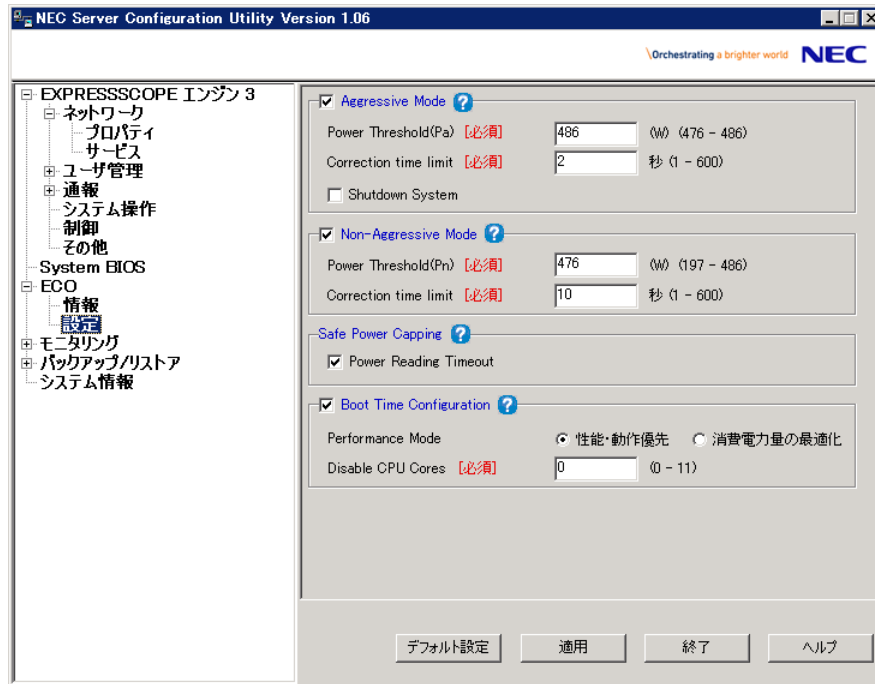
- *1: 表示している数値は参考値であり、装置の構成などにより異なる場合があります。
- *2: クロックの周波数またはデューティサイクルを低下させ、消費電力を抑える技術です。
- *3: 装置によってはサポートしていない場合があります。サポートしていない場合は、表示されません。

4.4.2 ECO 設定

消費電力やシステム負荷に関する表示と設定を行います。

ヒント：

- ECO 設定の注意事項については、5.8「ECO 設定」も参照してください。



項目名	意味	デフォルト値
Aggressive Mode	本体装置の消費電力を指定した上限閾値以下に抑止したい場合に利用します。CPU クロックの変更とスロットリング、およびメモリクロックのスロットリング(装置によりサポートの有無があります)を行い、システムのパフォーマンスを低下させる代わりに消費電力を削減します。消費電力が設定した電力閾値(Power Threshold(Pa))を上回り、Correction time limit で設定した時間以内に回復しない場合に、システムイベントログの取得、通報の送信、システムのシャットダウンを行うことが可能です。なお、通報の設定は通報設定画面から行ってください。	
Aggressive Mode	Aggressive Mode の有効/無効を選択します。	無効
Power Threshold(Pa)	Aggressive Mode の電力閾値を設定します。設定可能な値は、(AAA ~ 最大消費電力)[W]です。 *1 *2 *9	最大消費電力 [*9]
Correction time limit	消費電力が電力閾値を上回り、本時間以内に回復しない場合に、システムイベントログの取得、通報の送信、システムのシャットダウンを行います。設定可能な値は、(NNN ~ MMM)[秒]です。 *1 *3 *9	2 と最小値を比較して大きい方 [*9]
Shutdown System	消費電力が電力閾値を上回り、Correction time limit で指定した時間以内に回復しない場合にシャットダウンする機能の有効/無効を選択します。 *1	無効

Non- Aggressive Mode	システムのパフォーマンス低下を最小限としながら、消費電力の削減を行いたい場合に利用します。CPU クロックの変更のみで消費電力の抑止を行うため、Aggressive Modeと比較すると削減できる消費電力は少なくなりますが、比較的わずかなパフォーマンスの低下でシステム運用が可能です。消費電力が設定した電力閾値 (Power Threshold(Pn))を上回り、Correction time limit で設定した時間以内に回復しない場合に、システムイベントログの取得や通報の送信が可能です。なお、通報の設定は通報設定画面から行ってください。	
Non- Aggressive Mode	Non- Aggressive Mode の有効/無効を選択します。	無効
Power Threshold(Pn)	Non- Aggressive Mode の電力閾値を設定します。設定可能な値は、(最小消費電力 ~ BBB)[W]です。 *4 *5 *9	Power Threshold (Pa) - 10 と最小消費電力 + 10 を比較して大きい方 [*9]
Correction time limit	消費電力が Non- Aggressive Mode の電力閾値を上回り、本時間以内に回復しない場合に、システムイベントログの取得や通報の送信を行います。設定可能な値は、(NNN ~ MMM)[秒]です。 *4 *6 *9	10 と最小値を比較して大きい方 [*9]
Safe Power Capping	本体装置の消費電力が測定不能な状態に陥った際に、強制的に消費電力を削減することが可能です。本機能は、電源センサ故障時に装置の消費電力が急激に上昇し、本体装置を設置した環境のブレーカーが切断する恐れのあるシステムでの利用を想定しています。	
Safe Power Capping (Power Reading Timeout)	Safe Power Capping の有効/無効を選択します。	無効
Boot Time Configuration *7	システムブート時のパフォーマンスを設定します。また、ソケット当りの CPU のコア数の変更も可能です。	
Boot Time Configuration	Boot Time Configuration の有効/無効を選択します。	無効
Performance Mode	システムブート時のパフォーマンスを選択します。 *8 性能・動作優先 消費電力量の最適化	性能・動作優先
Disable CPU Cores	無効にする CPU のコア数を設定します。設定可能な値は、0 ~ (最大コア数-1)です。 *8 *9	0

*1: Aggressive Mode が "有効" の場合にのみ設定できます。

*2: AAA は、"最小消費電力" または "Power Threshold(Pn)" です。

*3: Power Threshold(Pa)と Power Threshold(Pn)が異なる場合、NNN は装置の最小値です。

Power Threshold(Pa)と Power Threshold(Pn)が同じ場合、NNN は Non- Aggressive Mode の "Correction time limit" です。

MMM は、装置の最大値です。

*4: Non- Aggressive Mode が "有効" の場合にのみ設定できます。

*5: BBB は、"最大消費電力" または "Power Threshold(Pa)" です。

*6: NNN は、装置の最小値です。

MMM は、装置の最大値です。

*7: 装置によってはサポートしていない場合があります。サポートしていない場合は、表示されません。

*8: Boot Time Configuration が "有効" の場合にのみ設定できます。

*9: 範囲及び値は装置によって異なる場合があります。

4.5 モニタリング

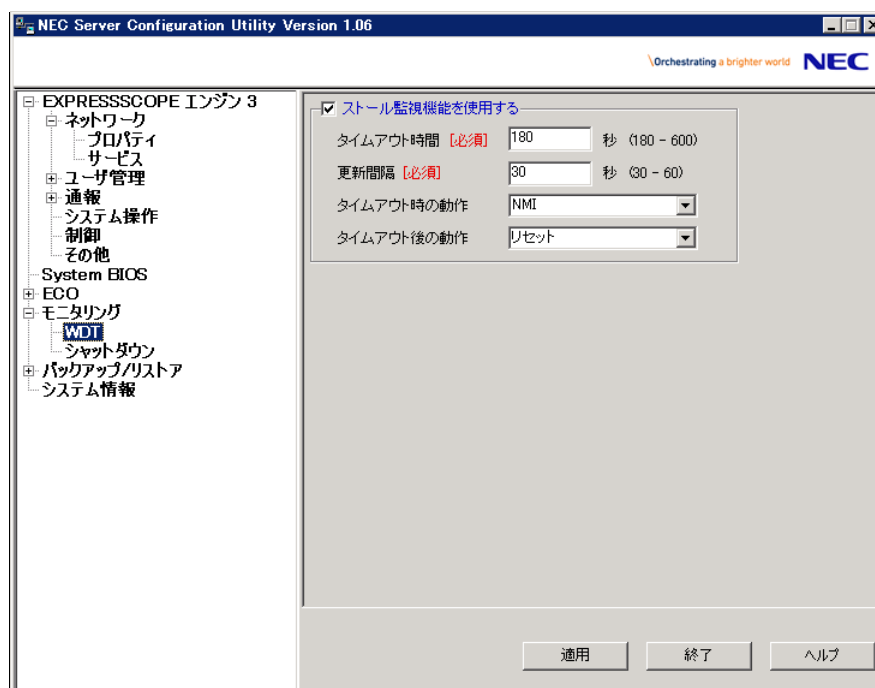
サーバのストール監視、シャットダウン監視の設定を行います。

チェック：

- Linux 及び Off-line TOOL には、この設定はありません。

4.5.1 WDT

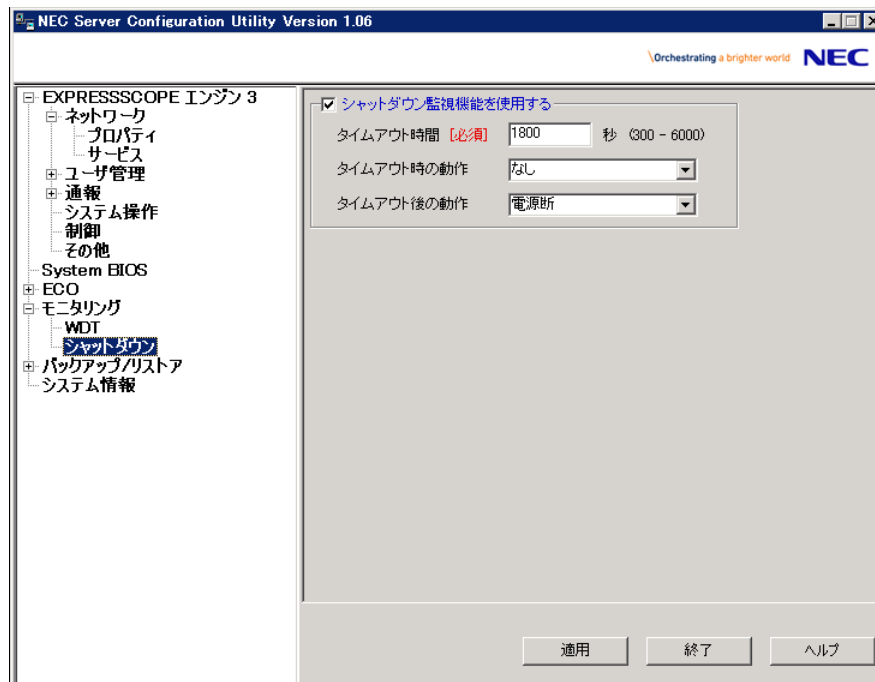
ストール監視機能の設定を行います。



項目名	意味
ストール監視機能を使用する	WDT 監視の設定です。
タイムアウト時間	タイムアウト時間を設定します。
更新間隔	更新間隔を設定します。
タイムアウト時の動作	タイムアウト時の動作を選択します。 なし NMI
タイムアウト後の動作	タイムアウト後の動作を選択します。 システム リセット 電源断 パワーサイクル

4.5.2 シャットダウン

シャットダウン監視機能の設定を行います。

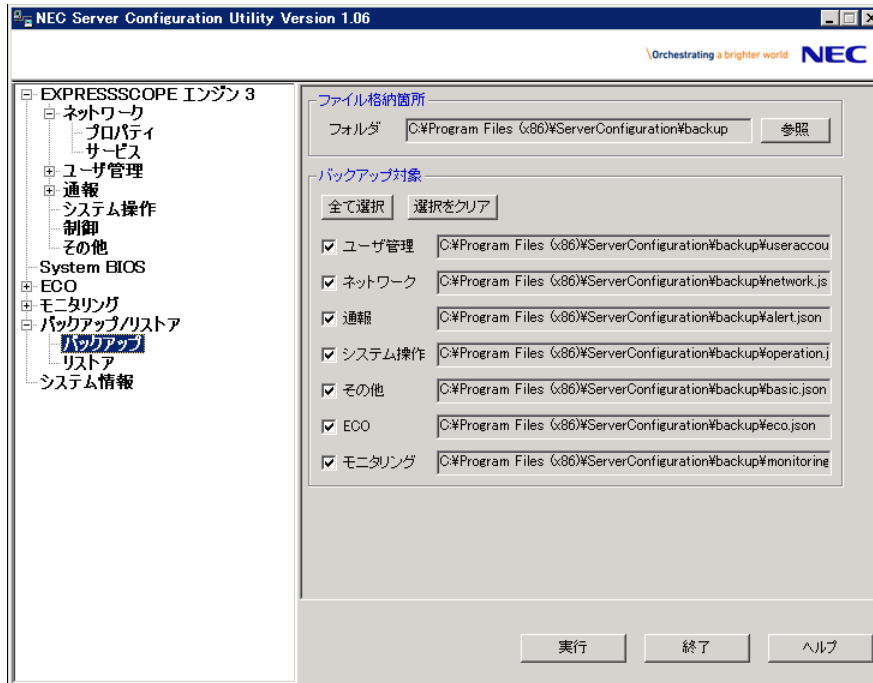


項目名	意味
シャットダウン監視機能を使用する	シャットダウン監視の設定です。
タイムアウト時間	タイムアウト時間を設定します。
タイムアウト時の動作	タイムアウト時の動作を選択します。 なし NMI
タイムアウト後の動作	タイムアウト後の動作を選択します。 システム リセット 電源断 パワーサイクル

4.6 バックアップ

設定値をファイルにバックアップします。

バックアップ対象を選択し、実行ボタンをクリックしてください。



項目名	意味
ファイル格納箇所	ファイル格納箇所を指定します。
フォルダ	ファイルの保存先ディレクトリを表示します。
参照	ファイルの保存先を変更します。
バックアップ対象	バックアップ対象を指定します。
ユーザ管理	ユーザ設定をバックアップする際に選択します。バックアップ先が表示されます。
ネットワーク	ネットワーク設定をバックアップする際に選択します。バックアップ先が表示されます。
通報	通報設定をバックアップする際に選択します。バックアップ先が表示されます。
システム操作	システム操作設定をバックアップする際に選択します。バックアップ先が表示されます。
その他	その他設定をバックアップする際に選択します。バックアップ先が表示されます。
ECO *1	ECO 設定をバックアップする際に選択します。バックアップ先が表示されます。
モニタリング *1	モニタリング設定をバックアップする際に選択します。バックアップ先が表示されます。

*1: 装置によってはサポートしていない場合があります。サポートしていない場合は、表示されません。モニタリングは Windows のみサポートとなります。

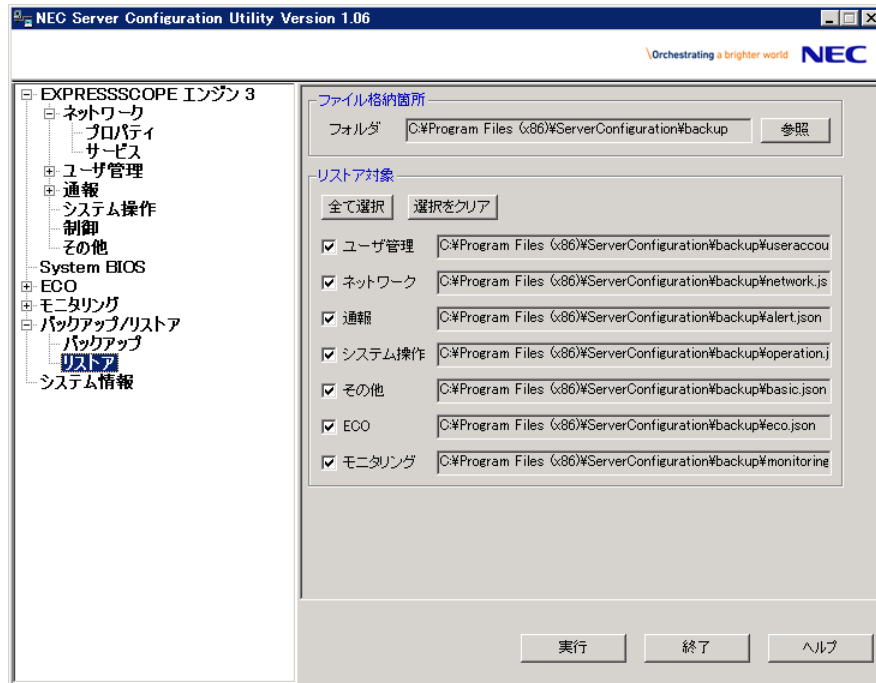
チェック:

- Off-line TOOLには、バックアップ機能はありません。
-

4.7 リストア

設定値をファイルからリストアします。

リストア対象を選択し、実行ボタンをクリックしてください。



項目名	意味
ファイル格納箇所	ファイル格納箇所を指定します。
フォルダ	ファイルの保存先ディレクトリを表示します。
参照	ファイルの保存先を変更します。
リストア対象	リストア対象を指定します。
ユーザ管理	ユーザ設定をリストアする際に選択します。対象バックアップファイルが存在する場合のみ、ファイル名が表示されて選択可能になります。
ネットワーク	ネットワーク設定をリストアする際に選択します。対象バックアップファイルが存在する場合のみ、ファイル名が表示されて選択可能になります。
通報	通報設定をリストアする際に選択します。対象バックアップファイルが存在する場合のみ、ファイル名が表示されて選択可能になります。
システム操作	システム操作設定をリストアする際に選択します。対象バックアップファイルが存在する場合のみ、ファイル名が表示されて選択可能になります。
その他	その他設定をリストアする際に選択します。対象バックアップファイルが存在する場合のみ、ファイル名が表示されて選択可能になります。
ECO *1	ECO 設定をリストアする際に選択します。対象バックアップファイルが存在する場合のみ、ファイル名が表示されて選択可能になります。
モニタリング *1	モニタリング設定をリストアする際に選択します。対象バックアップファイルが存在する場合のみ、ファイル名が表示されて選択可能になります。

*1: 装置によってはサポートしていない場合があります。サポートしていない場合は、表示されません。モニタリングは Windows でのみサポートとなります。

チェック:

- Off-line TOOLには、リストア機能はありません。
-

5. 注意事項

5.1 インストール

- Server Configuration Utility (Windows, Linux)は、現在インストールされているバージョンから古いバージョンへダウングレードできません。古いバージョンを使う場合は、一旦アンインストールしてから、再度インストールしてください。

5.2 EXPRESSSCOPE エンジン 3 設定全般

- 設定を適用する際、設定内容によっては BMC ファームウェアへ設定を完了するのに時間が掛かることがあります。適用中は以下のメッセージが表示されますので、数十秒から一分程度お待ちください。
 - Windows/Linux : 情報の設定中です。
 - Off-line TOOL : Updating the parameters.

5.3 HTTP、HTTPS 設定

- ネットワーク・サービス設定において、HTTP を有効とすると HTTPS も自動で有効となります。HTTP のみを有効に設定することはできません。

5.4 リダイレクション設定

- その他設定において、管理ソフトウェア設定のリダイレクションを有効で適用すると、システム BIOS のコンソールリダイレクションポートの次回起動時設定がシリアルポート B となります。

5.5 PEF 設定と SNMP 通報設定

- その他設定において、PEF を無効で適用すると、SNMP 通報が無効となります。また、SNMP 通報を有効で適用すると、PEF が有効となります。

5.6 BMC 通報

- 「通報」を有効にした場合、指定された「通報レベル」のイベントが発生したときに、BMC が指定された「通報先」に対して直接通報を行います。
- SNMP 通報の場合は、通報先に ESMPRO/ServerManager または ESMPRO/ServerManager 連携機能がインストールされていると、BMC からの通報が ESMPRO のアラートマネージャに登録されます。BMC からの通報は、管理対象サーバに ESMPRO/ServerAgent がインストールされているかどうかによって動作が異なります。
 - (1)ESMPRO/ServerAgent がインストールされている場合
BMC は管理対象サーバの OS が起動していない状態のときに、指定された「通報レベル」のイベントが発生した場合、通報を行います。
OS 上で ESMPRO/ServerAgent が起動している場合、ESMPRO/ServerAgent がイベント発生時の通報処理を行うため、BMC は通報先への通報を行いません。
 - (2)ESMPRO/ServerAgent がインストールされていない場合
BMC は、OS の状態に関わらず、指定された「通報レベル」のイベントが発生した場合、常に通報先に対して通報を行います。

5.7 通報テスト

- ・ 通報テストは、通報の設定をすべて完了させた後に実施してください。使用されるネットワークや通報先の設定によっては、通報機能をご利用になれないことがあります。

5.8 ECO 設定

- ・ 電力値は、閾値にまで達しない場合があります。電力制御は、CPU/メモリの周波数を下げることによりシステムの消費電力を下げます。CPU/メモリのスロットリング値が 100%に達している場合には、それ以上には電力値は下がりません。
- ・ Aggressive Mode の電力閾値(Power Threshold(Pa))に装置の起動に必要な電力値より低い値を設定し、シャットダウンを有効にした場合、装置が正常に起動しなくなる場合があります。本設定を有効にするときは、"Power Threshold(Pa)"の設定値に十分に考慮した値を設定することを推奨します。

5.9 管理用 LAN 設定

- ・ "Shared BMC LAN" を設定した場合、BMC 専用の LAN ポートは使用できません。
- ・ "Shared BMC LAN" を設定した場合、システム(OS)の LAN ポートを共有して使用するために、システム(OS)の LAN の負荷により BMC が使用する LAN の性能が低下する可能性があります。また、BMC が使用する LAN の負荷によりシステム(OS)の LAN の性能が低下する可能性があります。

5.10 通信タイプ設定

- ・ 以下の両方の設定がなされている場合、通信タイプを変更しても、その設定は反映されません。
 - ・ 管理用 LAN 設定が "Shared BMC LAN" に設定されている。
 - ・ BIOS SETUP (POST で<F2>押下) の Boot Mode 設定が "UEFI" に設定されている。通信タイプの設定変更は、Boot Mode が "Legacy" の環境でのみ反映されます。そのため、UEFI 環境で変更するには、BIOS SETUP で Boot Mode 設定を "Legacy" に変更した後に、通信タイプの設定を変更し、再度 Boot Mode 設定を "UEFI" に変更してください。

5.11 デフォルト設定

- ・ BMC 設定の初期化(Configuration Initialization)実行時に設定される値と、Server Configuration Utility でのデフォルト設定値の差分につきましては、該当する EXPRESSSCOPE エンジンのユーザーズガイドを参照してください。

5.12 キー入力

- ・ Off-line TOOL 起動時に、キーボード種別 "Japanese" を選択した場合、「¥」「|」「_」を入力することはできません。
- ・ Server Configuration Utility (Windows)において、「%」を含む文字列を設定する場合は、「%」を「%%」と入力する必要があります。

Revision History

1.00	2014/08/19	初版
1.01	2014/12/01	通信タイプ設定の注意事項を追加 誤記修正
1.02	2014/12/12	RHEL7 を追加 Linux でのインストール及びアンインストール手順を修正 System BIOS 設定を修正
1.03	2015/12/04	動作環境を修正 Windows 及び Linux でのインストール手順を修正 ネットワーク設定及びメール通報設定を修正 表紙変更、誤記修正

Server Configuration Utility
ユーザーズガイド

日 本 電 気 株 式 会 社
東京都港区芝五丁目7番1号
TEL (03) 3454-1111 (大代表)

©NEC Corporation 2015
日本電気株式会社の許可なく複製・改変などを行うことはできません。